

---

# 隊長と副隊長の生活

とびっこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

隊長と副隊長の生活

### 【Nコード】

N2123J

### 【作者名】

とびっこ

### 【あらすじ】

魔法と機械が両立した結構危ない世界で、  
隠れオタクな女軍人が無口無表情の上司と同居させられてから始まるラブコメディ（多分）  
能天気な仲間に胃を痛めたり真面目に仕事したりツッコミを入れたり主人公がフラグクラッシャーを目指し地味に頑張ります。

## 登場人物

ときたま増えます。  
ネタバレ注意。

### ミディナ・ブラウリー

19歳 独身 職業 オタク兼軍人。  
主人公で黒髪のロリきよにゆうニーソが似合う。  
顔は中の上。化粧しても変わらない。  
仕事中は無表情だがオフではどうしようもないオタク。

奇人変人揃いの国から上京してきた田舎者。  
事務が良かったのに実戦部隊に配属された。  
良く精神崩壊しなかったなと遠い目をするかもしれない。

器用貧乏で厄介事に巻き込まれても解決してしまう自分の能力が恨めしいと思っている。

趣味はゲームとアニメとフィギュアとアイマスクを集めること。  
小説はたまに読む程度。

最近フラグから目を逸らしているがスルー能力の低下に嘆いている。  
友人にはいじられ愛が足りないと言いつつ嬉しそうなのでどうしようもない。

祭りには全力投球。

### ルーディアス・フォン・グラディオス

25歳 独身 職業 軍人

セレブの男前。

軍内の付き合いたい男トップスリーに入る。

無口無表情だが副隊長に速攻デレる。

最近はどうや顔を習得した。

隊長の国は身長の高い人間が多いため、ちまっこい副隊長に一目ぼれした。

ロリコン疑惑が発生したが副隊長以外は興味がないのでロリコンではないらしい。

しかし副隊長に可愛らしい物を着せたがるので疑惑は残る。

実は副隊長を入隊時に目をつけて自分の部隊に入れさせるため色々させた鬼畜。

副隊長の料理が大好きで外食するより家で食べる楽しみを覚えた。貢ぐのはライフワーク。

### 例のあの人

今回の同居を決めた絶世の美男子

人を困らせるのが大好きで地位と権力を与えてはいけないタイプ

隊長と仲が良く協力的

二人がくつつけば面白いのにと色々と計画をたてている。

実は副隊長がオタクなのは知っているが理解は出来ていないらしい。萌えって可愛いと使うのか？というレベル。

### ヒツライツ

副隊長の入っている紳士倶楽部の女性幹部。

副隊長の憧れの人。

活動はいかに紳士に振舞えるか。

見た目は綺麗な女性だがどこまでも紳士。

ファルス隊長

後方支援の部隊、隊長

笑う度に歯が光る。

何も無いのに後光が差す妻子持ちのごついおっさん。

実は強い。

存在が暑苦しい。

ローディ副隊長

後方支援の部隊、副隊長

渋いイケメンだけでも頭にでかい羽がぶっささっている。

気分により色が変わる。

オレンジ色の羽がささっている時は要注意で最後の宴という事件が起きた。

ルウカ

副隊長の上京してからの友人

コスプレイヤーでなんでもこいというオタク

美人で副隊長をいじるのが好き

いつか一緒にコスプレするのが夢

クイール隊長

隊長の幼馴染。

やっぱりセレブ。

副隊長の好きなキャラの悪口を言った事により苦手意識をもたれたが最近天敵になった。

KYのためトラブルを引き起こすが誰も何もいえない。隊長をそそのかして副隊長の気苦労を発生させている。

## フアラン

隊長と副隊長の部下その1

落ち着いた茶色い髪に若葉色の瞳をもった好青年

## トラン

隊長と副隊長の部下その2

金色に近い明るい茶色で髪の毛と同じ色の瞳をしている青年  
照れ屋

## ギース

隊長と副隊長の部下その3

大柄で強面の心は優しいスキンヘッドの青年  
ケツフェチでケツ愛好会に入っている変態  
副隊長のケツは狙われている。

## キカート

隊長と副隊長の部下その4

身長が高く線が細い、気弱そうに見える外見だが腹黒鬼畜。

ルーシャ

隊長と副隊長の部下その5

美少女

隊長に惚の字。

ティアアラ

隊長と副隊長の部下その6

爆乳天使の異名を持つ美少女。

副隊長がたまにその胸に挟まれたいと思っている。

ノーゼラトウス

エリート研究員

アニメオタクでロリきよにゆうが好きな変態

食堂の女の人に恋をしている。

イケメンで声が良い。

スーツの性能を認められ協力体制に入り軍内でもちらちら見かけるようになる。

副隊長のオタク臭に気付き副隊長も嗅ぎ取ったため友人になる。

くつついた後、隊長達を巻き込みコスプレイヤーとなる。

ルウカは師匠。

マルカ

副隊長の友人。

二十二歳。

結婚の企画をしたりする仕事についている。

男前で副隊長が懐いている。  
見た目はほわほわした少女。

フラウ

ちっさい獣

隊長と副隊長のペットになる。  
人見知りが激しく野生では生きられない要保護生物。  
アルタと番になる。

アルタ

でっかい獣

隊長と副隊長のペットになる。  
幼いながらも王者の風格がある。  
フラウと番になる。

ピクルル

副隊長が部屋のどぎついピンクの配色に耐え切れず擬人化した。  
妹萌え。

## イラスト（前書き）

いただいたイラストや作者のイラストがおいてあります。

描いてくださった方には感謝の念が付きません。

随時募集しているのでとびっこまでコンビ二にいくより簡単な心持ちで送って下さい。

容姿は決めていないので髪の色とか合ってればいいと思います。

女の子はだいたいイメージがあるんですが男の方は適当なんで貴方様のイメージをお待ちしています。

## イラスト

> i 1 7 2 4 7 — 2 2 8 8 <

s i r oさんよりいただきました。

副隊長を描いていただきました。

作者がとんでもなく微妙な服を描いてしまったため申し訳ないことをしましたが作者のとは違って愛らしさがあります。

描き手によってこんなにも違うとは。

下乳やお尻がええかんじにぶにぶにしている眼福です。

> i 1 8 1 3 2 — 2 2 8 8 <

H B .さんよりいただきました。

副隊長とフラウたんを描いていただきました。

副隊長の私服が可愛らしいです。

というか乳がいいです。

ぴっちりよりパツツンパツツン派の私としてはナイスとしか言いようが無いです。

フラウたんが納得の可愛らしさでイメージ通りとはこういうことかと歡心いたしました。

> i 1 6 6 4 1 — 2 2 8 8 <

調子こいたとびっこが描いた副隊長です。

もう少しましな服にしておけばよかったと。

設定大幅無視ですがしょうがない。そこまで描けないんだからしょうがない。

一色でとかそんな無茶振りな。

拡大してみてください。

パンツの皺があまり見えないのが心残りです。

## 同居三日前

おいしい！！ふざけんなよこのイケメンがああああ！！  
毛根死滅しろ！！

そうシャウトしてしまうのはしょうがないと思います。  
いつも突発な命令に胃が潰れる思いを何度した事か。  
目の前にいやがる男はそりやもう面がいい。

顔の説明しなくても美形ですって紹介したらあの人ですねと返事が  
くるような人間です。

でもそろそろ美形補正を引きちぎりたいくらい怒りが。  
語ろつか？語ったら三日三晩どころじゃすまさない。  
すましてたまるかってぐらい無茶振りされてるから。

話は戻して、軍で聖獣機動隊黒龍、副隊長を務める私と隊長に突然  
呼び出しがかかった。

正直怒りで良く覚えていないが、上司の言葉を簡単に言っと

軍隊とは協調性も大切だ。

仲間に信頼が無くては戦う事など出来ない。

お前ら隊長、副隊長で隊員を引っぱっていく人間なのに仲いいかわ  
からんから

ちょっと同居して仲を深めて来い。

だそつです。

何でだよ！！

普通はキャンプでも行って一緒にご飯作ったりして とか

旅行にでも行つて思い出を作っちゃおう  
とかならわかるけどいきなり同居って

仮にも男と女だぞ!?

例え私が地味な顔してたつて一応女なんだぞこのやろう!!  
襲われたら!!むしろ逆に襲ったらどうする!!  
でも言えないチキンな私。

そりゃ、二人とも無表情で何考えているか分からないけども、  
私の場合は人見知りなだけで、入隊検査で身体能力が高かつ  
たからと

事務が良かったのあれよあれよと言う間に出世して副隊長の座に収  
まってしまった。

真面目な自分が恨めしい。

こんな小娘がいきなり副隊長になつたんだから誰か反対しろよ。  
むしろ地味にひっそりと生きたいのにこんな表舞台に引つ張り出さ  
れて。

融けたい。塩をかけられて融け落ちてしまいたい。

良かったのが他の隊の隊長のように私の隊は目立たない部隊だった  
事だ。

実際真面目な人間が多いし助かっている。

どんなに嫌な命令でわけがわからなくても命令は命令。

異論など唱えられるはずもない。

所詮軍人なんて犬ですから犬小屋を決められたら従うまでです。

ただ二人で了解しましたと言うだけで終わった。

隊長、どうしましようかって聞いたのに

よろしくだけですまないで下さい。

大変なの私達なんですから・・・

## 同居二日前（後書き）

2作目というか同時進行です。

一人称楽すぎる。

こちらが主な活動になるかと思えます。

## 同居一日目。

どうも、前回の三日後です。

言われた次の日にもう家用意したからと気軽に言われて急ピッチで荷造りしましたよ。

本当に仕事出来るなこの男、腹が立つ。

流石に上司の前で学生時代のジャージとかネタシャツ着れないのでその為の買い物とかしなきゃいけないので必死でした。

同居の為の参考資料あるから使つてね。と渡された分厚い資料。

もはや凶器のようなこの物体読めと言うのですか。

パリリと捲ってみると噛み砕いた表現がとてもむかつきます。

同居で注意する事や家の管理の仕方が図入りで丁寧に書かれてある。他にもトラブルに対する対処の仕方やらご近所付き合いまで書いてある。

ホームパーティーを開く際のホストの役割とか誰がやるか!!

恋人でもない人間が共同生活をしている家に誰が呼ばれるんだと問  
いただしたい。

気まずいわ!!

とまあ、そんなこんな仕事を片付け半休をもらった午後、ある意味  
新居に足を踏み入れ隊長とともに家の間取りなどを確認しています。  
職業病とでも言うべきかとつさに怪しいところはないか探っている  
自分が居ます。

それにあの上司なら盗聴器も仕掛けられたりしてそうで発見器と罠  
の確認、魔法の痕跡が無いとか本気で探してしまいます。

こんな殺伐とした引越し初めてです。

まあ素敵な一軒家!!何て思うと思ったか?三分でホームシックに  
かかったわ!!

いつ終わるかわからないから解約してない為残っているマイホーム

に早く帰りたい。

そして引きこもりたい。

積んであるゲームを全部クリアしたい。

幻想に片足を突っ込みながら点検する事三十分。念には念を入れてみました。

お付き合いいただけた隊長にはほんと頭が下がります。

この人も苦勞してるな・・・。

失礼な事を考えながらやつと腰を落ち着けて隊長と向かいあった。すっかり忘れていたけど私が誰とか隊長がどんな人とか説明してませんでしたね。

ゲームで言えば説明書らしき物が見当たらない。

中古であつたら値引きされてますよほんとに。

まずは私から

ミディナ・ブラウリー

19歳 独身 職業 オタク兼軍人。

小さな国からこの王都まで上京してきた田舎物です。

国といつても大陸の中であればまとめてひとつの国といった感じで文化は違うが

同じ大陸内であれば公用語が必須科目として小さい頃から勉強させられています。

そしてゲームや漫画はほとんど公用語で作られるから必死に勉強しましたとも。

入隊理由が当時はまっていたゲームの制服に似ていたからという。とりあえず給料はいいのだけでもゲームやら漫画やらを買うのに節約していたせいかお金は溜まりました。

その為一人でなんでもこなしていたから炊事や洗濯など家事は得意です。

いつかオタクグッズを全て収納できるような特別な家でも建ててやるうかと痛い事考えてます。

夢ってとても大事だと思う。

そしてもっぱら好きなのは少年漫画とギャルゲーやRPGなど。

仮想空間でキャラになりきるものより操作する方が好き。

仕事で毎日冒険のようなものをしているのに何故ゲームでもせにやならん。

主人公達も苦勞するがいい！！

屈折した愛が今日も爆走するってもんですよ！！

他には地味に育成ゲームで和んでいます。

いつ死ぬかわからない職業だからそういうとこに癒しを求めちゃうんです。

娘を育成するゲームをしたんですけど嫁にいった瞬間泣いた。

表情筋コントロールできて良かったと思っただ去年の夏の日。

仕事で泣きそうだったので本当にやばかったです。

わかります？お父さんじゃなきゃ結婚したくないって言った娘がある人お父さんに少し似てるんだ・・・

とか言いながら嫁にいく姿を！！高性能AIのせいかりアルな娘ができるこのゲーム。

どんなに手塩にかけて育てた事か！！

いかにしてくれと何度思っただ事か！！

後はフィギュアが好きだったりオールマイティな複合型です。

趣味が多すぎて自分でも把握しきれません。

紹介内容ほとんど趣味の話ですが私に語れるものは他にありません！！

他にも副隊長だったり隊の役割など話すんでしょうがめんどくさい！！

きつといつか明かされるはず。

むしろ明かされなくても問題ありません。

今の議題は口リツ子は縞パンか白パンどちらがジャスティスかそれ

だけです。

同居する相手の隊長は

ルーディアス・フォン・グラディオス

25歳 独身 職業 軍人

名門貴族の軍人を多く出してきた家柄らしいです。

フォンとかテンプレで噴いた。

本当は恐ろしく長い名前らしいのでカットしておきました。

そして色々謎過ぎて説明しづらい。

何考えているかわからない。

ぼーっとしているのかと思ったら小難しい事考えてるしめんどくさがり屋に見えて仕事出来る。

そして顔が良い。

スタイルの良い高身長に綺麗な銀髪、均整のとれた顔立ちとか賞賛の言葉しか出てきません。

すみません。男性の表現したことないから適当で。

とりあえず男前です。

そして声もいい。

声フェチの友人に聞かせたら絶対憤死する。むしろ私が嫉妬で奇襲かけられそうぐらいです。

ぼそりと喋るけど聞き取りやすい低くて良い声をしてらっしゃいます。

私は声優オタクじゃないので良くわかりませんが。

生活能力があるのかは未知数。

仕事以外の会話をした事がないとか・・・

けれどもこの人が酷い人では無い事はわかっているのである意味安心できる。

安心できないのは私という存在だしね！！（オタクという意味で）  
ヒヤッホウ！！自分で言っただけ悲しくなってきた。

自己紹介はこのへんにしといて話を進めます。  
とりあえずあの凶器を元に話し合う事にしました。

くその一

まずは自己紹介をしましょう。  
相手の宗教や生活における重要性などを理解しておかなければトラブルの原因となります。

「合わせる」

「了解しました」

終了。

隊長、楽です。

くその二

役割分担をしましょう。  
相手に寄りかかるだけでは信頼関係は気付けません。  
助け合い相手を尊重してポイントを稼ぎましょう。

ポイントとか二人とも見てるんだから言っただけいいのか？  
誰向けのこれ。

「隊長は家事などをなさった事がありますか？」

「掃除は出来る。」

この人の事だから  
全部捨てる。

家具以外のゴミという物の区別絶対つかない。

「それは……」

「捨てる」

「必要な物ですか？」

「買えばいい。」

ほら当たったよ！！買えばいいって無い間どうすんだよ！！

絶対この人執事とか家に居たよ！！

「……私は一般の出なのでそのような生活に慣れていません。出来ればゴミと思われる物以外は確認を取っていただければと思います」

「わかった」

大丈夫かなこれから。

いやいや隊長は状況判断はできる人だからきつと大丈夫なはず。

そう思わないとやってられるか！！

そうして話し合うこと二時間。

やっとこさ全ての確認が終わり各自の部屋に引っ込んだ。

目を背けていたんですが部屋の内装ピンクのレースが乱舞するお姫様のような部屋なんです、私に何を求めているんでしょう。

隊長のは落ち着いた部屋なのに……

目がチカチカして眠れんわ！！

こうなったら私の密やかな趣味のアイマスクが火を噴くぜ！！

今一番のお気に入りには見るものに恐怖を与える戦慄の破壊者シリーズです。

隊長に見られたら殉死目指して特攻するしかない。

そんなひそやかなスリルを味わいながら一日目が終了しました。

## 同居二日目、朝ごはん。

おはようございます。

自宅では遮光カーテンだったんですが、この部屋はレースのピンクのカーテンなので朝っぱらから目が痛いです。

光と色相のダブルパンチです。

誰の趣味だ本当に・・・

もそもそと起き上がり着替えをすませリビングへと向かう。

一日の初めと言えば朝ごはん。

隊長は料理なんて出来そうに無いので私の担当です。

隊長は出来るとおっしゃっていたんですが、野営ではとても豪快な腕前を見せてくれやがったので私がする事になりました。

・・・困った事に朝ごはんのメニューがわからない。

オーソドックスにパンでも用意すればいいのかなのか。

自分で作っていたせいかこちらの食べ物の作り方がわからないし材料がない。

なんていうことでしょうか。

まあ隊長は何でも食べるので文句は言わないでしょう。

むしろ言うな。

一通り作り終わりそろそろ呼びにいこうかなと思っていたときに部屋から隊長が出てきた。

新聞は今日から届けられる手はずになっていてそれを取ってきてから来たようです。

コーヒーは？と聞かれいただきますと言うと作り始めた。

なんだこのナチュラルさは・・・  
全然求めていない方向に進んでいるんですが。  
コップはお揃いの夫婦カップのようなものでしたが、なんかもういいや。

新聞を読み進める隊長の前に出来上がった料理を置き、食事開始です。

食事のお祈りをするのは軍内では普通なので隊長の言葉に続けて腕を組み、

食べ物を司る女神に感謝を言ってから食べ始めました。

私の国では違ったやり方なんですけどそこらへんは色々あるんです。

「美味しいな。」

「ありがとうございます。」

笑った!?

隊長が笑いました!!

二日目にして笑った!?

初めてみたよ!!

まだ起きてから一時間しか立ってないのに!?

デレるの早いよ!!

驚きで凄い顔になりそうですが、耐える私の表情筋。

今日はまだまだ試練があるんだぞ。

ファイト私。

これから買出しにいかなくてはいけないのですから・・・  
次の日に強制で有給を取らせ馴れないまま買出しにいかせるとか鬼  
だろうと私は本当に思います。

## 同居二日目、買出し。

イケメンは二次元に帰れこのやろおおお！！

何で三次元から出てきやがった。

よしんば出てきたとしても私を巻き込むなといたい。

いや、ただ単に横の男のせいで女性からの視線が痛く腹立たしいだけなんですけどね。

女の子は可愛い。

そして可愛いは正義！！

女の子は正義！！

正義を守る！！

それを信念に騎士道貫いてます！！

本当は騎士になりたかったのですが、今の時代無いので軍で手を打ちました。

無念。

そんな私の信念を崩す隊長はいかんともしがたいです。

しょせん女なんて顔か！！

やっぱ可愛いから許す！！

そうだ、怒りのあまり状況を説明するのを忘れていました。上に立つ者として恥しい限りです。

家に料理の材料や日用品の備蓄などもあることはあったのですが、僅かなもの。

時間がたち馴れてしまえばどちらかが買い揃えてしまうという無駄に行動力のある私たちの事を考えたのでしょうか。

性格上足りないものがあると落ち着かないのです。

なので揃って有給を取らされどちらかが買いに行くという時どちらも譲らず結局二人で買いに行く事になってしまつのです。上司なんだからパシリにでもすればいいのに。

トイレットペーパーを持ったイケメンってそれでも様になるんですね。

まずは日用品をと思いあらかた買い終わった。

両手に持った日用品が庶民臭さを出しているにも関わらず輝きが衰える事を知らない。

奥様方の熱い視線が隊長に注がれ冷たい視線が私に突き刺さる。

平凡な顔で悪かったですね。仕方が無いんですよ！！

そして最初に戻るわけです。

これだから面の良い奴は！！

ああもうあの男の所為で最近こんなばっかだな。

待て、クールになれ頭を冷やすんだ私。

妬みは何も切り開けないぞ。

よし！！食料を買いに行くぞ！！

無言で私の後を着いてくる隊長を引き連れてギラギラとした奥さんが買い物をして中へつつきていく。

私の国と違い地下に食料を溜め込んでおくのが主流なこの国は買い貯めを良くする。

昔頻繁に戦争をしていた名残だそうだ。

保存食が豊富なのが特徴で何故か魚介類が好き。

今では新鮮な魚介類が手に入るが内陸だから昔は干物などが多かったらしい。

新鮮な魚介類を求めてわざわざ行く人も多かったそう。

まあ今でもいます。

隊長も好きなのだろうかと魚介類コーナーへ向かうとあからさまに気になっている様子が分かる。

好きな魚介の前になると歩みが遅くなるので隊長が押しているカー

トの中にポイポイと入れていく。

何故自分の好きな物を入れていくのか不思議な顔で私を見るが存外、外では分かりやすい人らしい。

意外だ。

外でも自分の考えを見せぬ人だと思っていた。

調味料は揃っているから魚のスープにでもしようと思う。

家路に着くときさり気なくエスコートしてくれる隊長が不思議で堪りません。

車を運転する時も扉を開けるときも後ろにいたはずなのにいつの間にか前に出てくる隊長。

任務時では男女関係無く指示を出す隊長は紳士だったようです。

紳士を妬むなど私は愚かな事をしていたようです。

これからは心を引き締めて背後を守らせていただきます！！

## 同居二日目、晩御飯。

お昼は軽いものを買って各自の部屋で食べました。

一つの部屋が広いので別にリビングに行かなくても問題はありませ  
ん。

私が借りていた部屋全部と同じ広さって・・・

隊長は驚いていなかったのでブルジョワな事が丸わかりです。

そんな舌の肥えてそうな隊長にあつような晩御飯が作れるのだろう  
かと考えながら、

伝説の空き教室でカズミちゃんを待っている私です。

ふふ、今二股プレイ中です。

カズミちゃんを振つてからレイコちゃんの告白をOKするとカズミ  
ちゃんがヤンデレ化する泥沼エンドが迎えられるわけですよ。

その選択肢によってルートも分かれるのです。

一回目はカズミちゃんを落とすルートにし・・・よう・・・かと  
思ったのにいいいい！！

ドアを開けて入ってきたのは二人。

カズミちゃんとアドバイスをしてくれる男友達のコーイチだった。

コーイチてめえ何かズミちゃんの腰に手を回してやがる！！

コーイチ君と付き合う事になったのってカズミイイ！！そんな女  
の子の電話番号やスリーサイズまで調べ上げるような変態の何処が  
いいんだよ！！

ぶわへああああ！！

頑張ったのにいいいい！！

ちよっ・・・攻略サイトカモン！！

ランダムでカズミを取られます。

おおっ・・・

分かりやすい説明ありがとうございます。

ロードすれば直るみたいで良かった。

まだレイコちゃんも落としていないのでこのまま続行してレイコちゃんもルートにしますか。

寄り添って出て行く二人を見送ってレイコちゃんを待ち無事にクリアする事が出来ました。

ちょうど時間がきたので晩御飯の準備に取り掛かることにします。

考えたって隊長の好みなんて知るわけがないので自分の好きな物を作る事に決定しました。

オン・ザ・ライスが一番好きな私ですが、隊長にそんなもの出せないで

海産物を揚げた物と海産物をぶち込んだトマトベースのスープ、海産物を混ぜ込んだライス。そして海草の入ったサラダ。

それらを作った。調子にのって海産物を買すぎた結果がこれだよ。流石にやりすぎたかなあと思っていたら隊長の目が輝いた気がする。どんだけ好きなんだよ海産物。

スープお代わり何回目ですか。

自分も前の席で食べながらその勢いに吃驚していると揚げ物だけが残っている。

さっきムツシャムツシャ食べていたような気がしていたのですが気のせいでしょうか。

口に合わなかったのかと思い聞いてみると。

「朝に食べる。」

子供か！！

しかし、揚げ物というのは時間がたつとへにやる物だ。

それを隊長に食べさせるのはいかがなものかと思う。

「明日新たに作るの食べてください。」

「分かった。」

そういえばお弁当をいつも作っているから明日も作る。一人だけ作るのも申し訳無いから隊長の分も作るうか。

「隊長。明日お弁当を作るのですがいりますか？」

「いる。」

即答ですか。

「ところでオイベントウとは何だ？」

知らないで即答したのか！？  
適度に説明すると揚げ物を差して

「これを入れて欲しい。」

と言った。

ちよっ飽きますよそれ！！

どんだけ気に入っただんですか！？

加熱してあるからお弁当に入れても平気かもしれませんが。  
他にも違うものを入れないと。

「初めて食べたものだが美味い」

ふわりと笑う隊長に私は思いました。

だからデレるの早いよ！！



## 同居二日目、晩御飯。(後書き)

住んでいる地域の特徴は日本と海外をベースにしています。

主人公の産まれ育った場所は日本ベースで魔法が盛んで変人が多い事で有名です。

奇行に走るとああ、あの国だからと納得される面白い国です。

## 同居三日目、仕事。

昨日と変わらず朝から視界をドピンクと日光にジャックされて起床した後、

朝ご飯に隊長の希望通りのものと軽いものを出したら喜ばれた。どうやら私の国の食事は隊長に合うらしいのでよかったです。

今日のお弁当の反応次第ではタッパーからお弁当へとレベルアップする必要がある。

流石に私がお弁当で隊長がタッパーなのは良くない。

包みを渡し、命令とはいえ男女が共同生活をしているのは部下に示しがつかないので時間をずらしての出勤。

今日は会議もないし訓練も比較的簡単なものだから騎獣の世話を念入りにやろうかなと一日の計画を立てる。

隊名にもある通り私の隊は騎獣と呼ばれる生き物に乗り遠くの任務へ行くときに直ぐに行ける速さと撲滅能力が売りの部隊です。

他にも守りに特化した隊や後方支援に特化した隊などありますが騎獣に乗るのは私のところと後二つ程度です。

数は少なく危険な任務が多くて移動時に常に魔法をかけていないとGで死んでしまうので高レベルの魔法を使える能力と騎獣を従えるだけの力を持たないといけない必然的にエリートが集まっています。お給料は良いですがパレードとかやらされて私は半泣きです。

その時ばかりは目立つ事を余儀なくされ、目立ちたがりの後方支援を担当する隊に嫉妬の視線を注がれる羽目になるのです。

あの人たちは援護するのに一々叫ぶから煩いのでいつそ前に出てくれば良いと思うのにそれは美学に反するらしい。

前回出たときは友人にお前テレビに出てたぞと言われリアルにらめえええと叫んだのは黒歴史です。

本当は世話をしなくても隊長、副隊長クラスになると専属の世話係がいるが、自分で世話をするのが普通。

任務時は自分の命がかかっていますからそれを怠るようじゃ直ぐに死んでしまう。

地位が高かろうが低かろうが前線に立たされるので完全な実力主義のこの世界は中々居心地がいい。

午前は訓練と騎獣の世話をしてお昼をお気に入りの木影で食べて隊長の書類整理を手伝う。

もう直ぐ終わろうかというとき隊長が声を掛けてきた。

「うまかった。」

毎回思うのが任務説明時以外主語を省かれる。

とりあえず礼を言っておきました。

この人は褒めるときは褒めるタイプだというのは分かっているのに今更照れたりなんかしない。

最初の頃は突然褒められて脳内で絶叫していたものですから。

「それで何だが、一品多く作ってくれないだろうか。」

これだけじゃわからないので詳しく聞くと食堂で食べていたら同僚に食べられその同僚がもの凄く気に入ってきたので全部奪われる前に何か作って欲しいとの事です。

まず食堂で食ったのかいと思いましたが、隊長の事だから外で食べるとかそういうことは考えなかったんだろうかと思えます。

周りに見られたのも気にしてはいけないんだろう。

しかもその同僚って多分あの人だろーかと思っただが私が苦手だと分かっているから名前を言わなかったのだろーかと思えます。

幼馴染らしいですがあのテンションにはどうも付いていけない。

その内出てくるかと思いますがめんどくさい人です。

それにしても隊長お弁当を作る事は決定事項なんですね。別にいいですが。

お弁当の大きさはどんな物がいいか、また一緒に買い物に行かないとなぁと思っていたらこれから隊長と一緒に買い物に行くのが普通になるとは思ってもいませんでした。

同居三日目、仕事。(後書き)

その内設定とか人物紹介でも書くかどうかと思います。

## 同居十日目、突然の帰宅。

絶賛駄目人間っぷりを披露している私です。

隊長が三日前から出張で居ないのでここぞとばかりに自堕落な日々を送っています。

いきなり日にちが飛んでますが弁当の量が増えた以外、別段語ることも無く、

物凄く平和な時が流れていました。

今回の同居を提案してきやがった上司は、変わった事が無くて不満らしいですけどね。

あつたとしても報告書に真面目に書くと思ってんのか。

お前にだけは屈しない！！いやまじで！！

音ゲーとか気付かれたらやばいからこういう時にしか出来ないのが苦痛で仕方が無かった。

軟体生物のようだと言われた私の両腕が疼く！！

・・・ちよつとかつこよかつたような気がしませんか？  
しませんか・・・。

久しぶりの自由でちよつと解放気味だったようです。

この三日間ひたすらやりつくしたので充電完了しましたけども。

後少して全曲クリア。

腱鞘炎になったとしても自分で治せるので問題ないので止まりませんでした。

それにしても明日は隊長が帰ってくるからどんなものを作ろうか。

海産物以外のものもお気に召したらしくそこまで困らないのですがまだまだ隊長の好みを把握しきれっていません。

食材の確認も兼ねてキッチンへ行こうとするトリビングに居ないは

ずの人が居た。

「隊長、お帰りは明日では？」

「終わらせてきた。」

「そうですね。夕食はどうなさいますか。」

食べてきたのなら作らなくていいのだけど。  
むしろ食べてきてくれればいいと思う。

「味が濃い……」

なるほど。

あちらの食事が気に入らなかったと。

その程度で仕事を急がせるような人ではないのだけど。

それ程不味かったということか。今回の出張、隊長で良かった。

少しばかり痩せたような……分らない……

流石に隊長の体型まで把握してません。

していたら気持ち悪いと思います。

「了解しました。」

味が濃かったというならあっさりしたものでいいだろう。

鶏肉のサラダをメインにして後何品か作るか。

というか野菜を消費しよう。

そして明日は新鮮な野菜を買ってこよう。

そんな計画を立てているともう喋らないと思っていた隊長から声がかかってきた。

「明日は暇か。」

「明日は非番ですが。何か御用でも。」

「買出しに行く。」

いや、非番とは言ったが暇とは言ってませんよ。

明日は新発売のゲームを買いに行くという使命が。

お疲れのようだから私が一緒に買ってきますよ。

なんていうことは言えそうにないので素直にご飯を作りました。

なんだ、そのメラメラと燃え上がる無駄な闘志は。

買い物に行くだけなんですけど。

あ、帰還の挨拶を忘れてた……。

予想外の事に驚いていたらしいです。

同居十日目、突然の帰宅。(後書き)

海産物と魚介類が統一されていないのに気が付いたんですが、直すのもアレなんで脳内保管でお願いします。

こまけえこたあいいんだよって言葉大好きです。

## 同居十一日目、贈り物。

ピンクの呪縛から逃れられない私ですが、最近馴れてきた事に悲しみを覚えました。

こうして人は成長していくのですね。

・・・、朝ごはんを作りますか。

朝からもりもり食べている隊長は見ていて気持ちがいいです。

時間がある時は食器を洗ってくれたり色々お手伝ってくれるので、概ね良好な同居生活が育まれているかと思えます。

そして飲み物を入れるのが上手いので同居して良かったなと少しだけ思ったりしてます。

紅茶派だった私も、最近ではコーヒーも良いと思えるようになりました。

何故かコーヒーを飲むと眠くなるので朝は遠慮したいのですが飲んでしまう罨が。

食事を終えた後は準備をして買出しへ。

スマートにエスコートを行う隊長に羨望の眼差しを向ける私は何処かずれているのでしょうか。

いや、紳士倶楽部会員としてそこまで相手に気付かれる事無く思うがままに女性を導く姿を見て熱い眼差しで見ない者など居るはずがありません。

ちなみに正装は燕尾服かと思いきやスーツです。

男の戦闘服ですからね。

私は女ですが性別の垣根は関係ないという倶楽部の方針なので僅かばかりですが女性も居ます。

幹部のヒツライツ様は女性ですが、この私でもうっかりときめいてしまう程です。

下っ端の私ですが相手の力量くらい分かる。

隊長は幹部候補と言ったところですね。

などと、考えながら車に揺られていると付きました。

ブルジョワ臭のする建物へ。

今日は頼んでいたものが届いているらしく付いてきて欲しいとの事。うおっ！？まぶしっ！？

洋服店にいきなり入るとか私を滅するおつもりですが。

そうですか、その喧嘩受けて立たないので帰らせてください。

ゲーム買わせてください。

「出来たものは」

隊長こなれてやがりますね。

私も馴染みのゲーム屋と本屋では顔を覚えられていますよ。やったね！！

「こちらでございます。」

半分意識がゲームへと向かっていった私の目に映ったのはひらひらふわふわとしたワンピースやコートやら靴までも、店員がわさつと出してきたところでした。

「お嬢様に大変お似合いです。」

そう言って差し出されたのは私。

それを見て頷くのは隊長。

試着室へ追いやろつとする店員。

何が起こっているのはわかりませんが頼んだ覚えがありません。押し込まれた試着室の中で鏡を見てみると現実逃避をしたくなかった。これは着ないと出れない気がしたので素直に着ましたけど。チキンですみませんねえ。

「似合っている。」

消え去りたい気持ちを押し殺して出てみるとふんわり笑う隊長がお目見えしました。

だから、デレるのはまだだろうと何べん言ったらわかるんだとおおお。

確かにそこまで似合わないわけではないですが、隊長に微笑まれる程のものではありません。

こんなふわふわしたもの子供の時でも着ませんでしたよ。毎日がサバイバルでしたからね。

「このまま着て行く」

何処へ！？

と思っただら着替えた服や靴、他の荷物を車に置いて普通に買い物に行きました。

微笑ましく見てくる奥様達が恐いです。

私は何歳に見えているのでしょうか。

恥ずしくないんですか？

私は子供ですか？

風船なんて・・・いります。



## 同居十一日目、犯人。

お昼時になったので昼食を取りつつ詳しい事を聞いててみると、世話になってるのでお礼がしたいので相談したと。

そこで洋服はどうだという事になり贈ったということでした。

日頃の仕事での礼も入っているから気にするなと言われましたが気にしない馬鹿が何処にいるんだと。

そうだとしても十日は早すぎるだろうと。

そしていつのまに頼んでいやがった。

そんな事言いやがったのは誰かと聞くと口調を再現してくれました。無表情から放たれるテンションの高い言葉には引きましたが犯人がわかりました。

だいじょーぶ、だってー

一緒に住んでんだろ？

そりゃもう喜ぶだろー！！

女は服とか宝石とかが一番良いつてー！！

この口調からはじき出される答えは一人。

お前かー！！

例の幼馴染のお前かー！！

今、苦手から嫌いにランクアップしたよー！！

おめでとうございますー！！

というか何、同居してる事ばらしてやがるんですか。

しかも同棲かと勘違いしてやがる。

色気のあることは一切ねえよー！！

聞く相手が間違っているー！！

確実に悪化させる方向にいくだろうがアイツは！！

あれ？でもどうして今日受け取りだったんでしょうか。  
今日帰ってくる予定だったはず。

最初から早く帰るつもりだったのか！？

私の非番を狙うなんて、この短期間で用意周到ですね・・・  
服はサイズ直し程度なので直ぐに終わったそうです。

昨日の隊長が張り切っていた理由がわかりました。

お礼がしたかったんですね・・・。

でも服は間違ってます。それなら新しい剣が欲しかったです。  
それにこの趣味、隊長の趣味ですか？

ロリコンにしか見えませんよ。

自分が着たって面白くもなんともありません。

可愛い幼女が着るのだから良いのであって、着るのが私かよ。

けれど隊長に逆らえるはずもなくお礼を言いました。

弱い自分が恨めしいです。

金持ちってこんなものなのだと諦めるべきか。

それともいつか復讐してやると燃え上がるべきか。

・・・諦めよう。

帰りの車の中で思ったんですが、サイズがぴったりだったんですけ  
ど。

何でかと聞いたらまずいでしょうか・・・。

私はお返しにお弁当箱を買ってあげました。

流石にずっとタッパーは・・・。

喜んでいたので良かったです、とても疲れしました。

今日は癒しを求めてひよこのアイマスクをつけて就寝する事にしま  
す。

取ったらドピンクがお目見えしやがりますけどね。



## 同居十四日目、煌びやかな物体達。

今日も真面目に仕事をしております。

書類にサインする作業は私の中では好ましい作業の部類に入ります。それも終わりお昼ご飯も食べて眠気がマックスですが、私の苦痛はこれからです。

何と午後から合同訓練があります。

合同訓練という名の拷問ですがね。

恐ろしく精神力を使うんですよ。

流石のスルー力を持ち合わせている私でも受け流す事の出来ない生き物達がわっさわさという部隊。

前に少し出てきました目立ちたがりが集まっている隊で、

シュバイツァ・ファステック後方支援及び医療部隊。

凄いだろ？これ正式な隊名なんだぜ？

シュバイツァとかファステックは人物名らしいです。

何でもみんなの憧れなんだそうで、昔はまともな隊名だったそうですが、いつの間にかこうなりました。

いつか後方支援とかも取ってやるとか言っていましたでしたがそれをやられたら何の部隊かわからないので本気で止めて欲しいです。

他にも追加したいとか言い難いので止める！！

まだまだ隊の知らない知識がありますが話を移します。

渋谷と外の訓練所へ移り、始まってしまいました。

今回の合同訓練の目的は騎獣の治療手順の確認、連携の取りかたなどです。

私達の隊は騎獣に乗っている分移動が早いので他の隊との連携が苦手になりがちなのです。

人間と違って騎獣はデリケートなので顔合わせも兼ねています。ですから、ときたまこんな訓練も必要なわけです。

今は負傷者を騎獣に乗せて運び治療をしてもらう訓練中なので、気合の入った声が聞こえてきます。

「ヒロイツクステエエション！」

「ファイアテイルスウェック！」

注、回復呪文です。

・・・本当は訓練というか、馴れさせるためなんですよね。

ちらりと私の隣にいる隊長を見てみると珍獣を見るような目で見ています。

他の隊員を見ると引いている。

流石はシフ隊、あまり動じないこの隊を此処まで引かせる事が出来るのは貴方達ぐらいです。

ちなみにシフ隊というのは略称です。

本人達に言っとマジ切れされるので言っではいけません。

毎回魔法を使う度に叫ぶのはいかなものかと。

それで敵に察知されないのは奇跡としか思えませんが、企業秘密らしいです。

知りたくばシフ隊に入れというのだから・・・断固拒否します！！

思考を飛ばしていると、次の訓練に移るのかシフ隊のローディ副隊長がやってきました。

シフ隊は二人とも男性ですが、存在が恐ろしく派手です。

ローディ副隊長は何故か頭に鳥の羽がぶっささってます。

気分によって変わるらしく今日は機嫌がいい艶やかな羽がささって

ます。

パツと見は渋い感じのイケメン野朗なんです。が言動とかが残念な事になってるので惜しい人です。

ファルス隊長はごついおっさん何ですがやっつてることは無邪気な少年さながらです。

そして何故かいつも輝いています。

笑う度に歯が光る、何故か後光が差す。

奥さんも居るって言うんだから世も末です。

しかも美人でラブラブだというから……。

別に羨ましくなんかないのでローディ副隊長に戻ります。

「次は目的地まで運んでもらうのに移りましょう。華麗に頼みます。」

「分かった。号令を。」

「はい。」

華麗には余計だと思えます。

若干、騎獣達が乗せる事を拒否してますが優秀な子達なので我慢しています。

レースがふんだんにあしらわれた服や発光している服を着た人間なんて乗せたくないのはわかります。

それで無くとも他の人間を乗せるのは騎獣、人間共に非常に疲れるので明日は全員休暇にしてあります。

後少しの辛抱なので頑張らなくては。



同居十四日目、煌びやかな物体達。(後書き)

大抵はシフト制なのですが、訓練の後だけは全員お休みです。

管轄を他の騎獣隊に見てもらっているので問題はありません。

そのかわり他の隊の訓練後は少し忙しいです。

騎獣隊同士の仲はとても良いのが自慢です。

そしてシフ隊だけは隊服の改造が認められています。

奇抜さゆえにシフ隊だとわかるからです。

原型を残しつつ改造する事が出来る巧みの技を発揮しています。

## 同居十五日目、アングラ。

薄暗い階段を少しずつ降りていく。

周りには人影が見えず此処にいるのは私だけ。

こんなところを歩いているなんて他の人間は知らないだろう。

もう待ち合わせている人間は着いて私を待っていることだろう。

私の望むものは既に手配してある。

紙を渡せばいいだけの事なのに握りしめた手が汗ばむ。

初めてだから緊張しているんだ。

そう、此処に来るのは初めて。

そしてアレを買うのも。

いつも買おうか悩み、諦めていた物を強い勧めに負けて買ってしまった。

一つ手に入れてしまえば転げ落ちるのは簡単なのに。

何て自分は弱い人間なのだろうか。

越えてはいけない壁を叩き割ろうとする音が足音と共に近付いてくる。

軽い扉を開けると明るい光が溢れてくる。

見渡せば思い描いた以上の光景が広がる。

そう此処は、

オタクならば必ず来るといふ知る人ぞ知るオタクの聖地。

みるぼん マジック

そこで私は、ミルフィさんの等身大抱き枕を買ってしまおうとしているのです。

もうね！！ミルフィたんは俺の嫁というか何と言つか。  
抑え切れぬ衝動が私を突き動かしたわけでしょうがない。  
しょうがないんだと自分を騙しながらやってきてしまいました・・・。

私は大人しいうさぎのような子が好きなんですよ！！

理想の嫁像がいたら買うしかないでしょ！！

ロリで猫耳で巨乳で大人くてちょっと泣き虫。

語ると恐ろしい事になるのでやめておきますが、昨日あんな訓練があつたにも関わらず愛ゆえに来てしまいましたよ。

もうね、オタクなんだからいいかなあつて持っていたらドン引きされると分かっけていても欲求に耐え切れませんでした。

それにしても室内全てがほぼ美少女。

流星はオタク界のカリスマ ジョージさん

みるぼんは俺の嫁と言ってブームが過ぎているにも関わらず未だに愛しているジョージさんは凄いです。

本当は宅配にしようかと思つたんですが万が一隊長が受け取るとま  
ずいじゃないですか。

ミルフィたんが出てる箱庭の鈴を作っている会社は宅配の梱包が恐  
ろしく地雷な事で有名なのも問題です。

堂々と女の子がプリントされているのを見られたら爆死も厭いませ  
ん。

自宅の方は受け取れないし、直接受け取つて新しい枕を買つたんで  
すと言つた方が安全だという事で落ち着きました。

最近は隊長と休みが被るのでどうしようもないのです。

本当は別々の方がいいのですが、あの憎き上司のいらん気遣いのせ  
いです。

おもいつきり楽しんでやがりますね。

意外と広い店内を見渡しながら進むと背中を押してくれやがった友

人のルウカが居ました。  
今、人気キャラのフィギュアを真剣な目で見てると何だかほっとするのは何故でしょう。

「ルウカお待たせ。」

「みっちょーん。こつちとこつちどつちどつちがいい？」

「第一声がそれかい。スク水一択で。」

「このスク水好きめが!!！」

「ロマンを求めて何が悪い!!！」

しょうもない二人ですみません。  
友人には口が悪いです。

ルウカはスクール水着をきている桃色の少女と魔法使いのような服に身を包んだ黒髪の女の子で悩んでいたようですが私に聞いた事が間違いなのです。

スク水の方は制服が着脱可能なのも良いと思います。

自分も昔は着ていたのに二次元に求めてしまうのは何故でしょう。

プールに行つて子供を見てもなんとも思わないんですけどね。

可愛いとは思いますが萌えは感じません。

「じゃあこつちにしよう。みっちょんは取りにいかないの？」

「んーまだ来たばかりだから見てからにする。フィギュアも欲しいし。」

早く受け取ると動きづらいじゃん。」

「それもそうだねー。そういえば新作のストラップ出てたよ。」

「まじでか!?!」

「まじでだよ。」

「いくぜ戦友!?!」

「えっ何そのテンション引くわ……」

「……」

ちよつと鬼畜なのが彼女のいいところです。

それにしても女性が私たちしかいないのは少しつらいです。

女だって来たっていいじゃないか。

最近増えてきているんですよ。

男性程外に出ないだけで影では暗躍しているのです。

コスプレとかは有名ですけどね。

私はしたことありませんが。

友人に進められても断ってます。

ルウカはスタイルが良くて人気があるみたいですが私にとっては未知の世界です。

既に仕事がかコスプレみたいなものですけどね。

ルウカの鋭い一言にへこみつつ買いたい物もがつつり買い、

抱き枕も受け取って店を出ました。

お昼ご飯はルウカの要望でオムライスのお店に。

しばらくしていなかったオタクトークは心を癒します。

決して隊長と同居したことなんて言いません。

どんなネタにされることやら……恐ろしい。

その後は軽く買い物をして別れました。

抱き枕が予想以上に邪魔臭い。

カバーを外しても存在感があるので後日ちゃんと遊ぼうということに。

帰ったら隊長が出迎えてくれました。

どうやら寂しかった様子。

先日贈ってくれた服を着ていなかった事が不満らしいですが、あんなフワフワしたものを着てルウカにあったらどんな目に合うか。

確実に弄り倒されます。

少し機嫌が悪そうな隊長もご飯を食べたら機嫌は治りました。

抱き枕は自宅に帰れた時にでも置きにいくことにします。

流石に使用はしません。

持っているだけでいいんです。

勿体無い考えでしょうか。

同居十五日目、アングラ。(後書き)

抱き枕がラインだと思ってます。

あれっていくらぐらいするんでしょうか。

## 同居十八日目、ジュンコの夢綴り。

珍しく男同士の付き合いがあると午後から出かけた隊長。

それを見送ってリビングで一人紅茶を啜りながら此処最近見ているドラマの最終回を見ています。

右手にはミルクたっぷりの紅茶を。

左手にはボックスティッシュを。

重装備です。

ポットに入った紅茶も残り少なくなりドラマは後数分で終わる。

「ねえ・・・私は最後まで貴方に傷を残せたかな？」

もちろんですともおおおお！！

なんで死んでしまっくん？

ジュンコは充分傷付いたじゃないか！！

「これ以上俺に傷を残してどうするんだ！！俺は・・・俺は！！」

くっそお。

鈍感男め・・・

お前が気付かなかったせいでジュンコの手術が出来なかったんじゃないか！！

今更泣いたって遅いんだよ！！

「悪い女になってみたかったんだ。」

ぱたりと力なくジュンコの手がベットの下に落ちるのを真剣な目で私は見つめる。

「じゅめんね。」

そうして物悲しい音楽が流れてドラマは終わった。

残ったのは軽快な音楽が流れるCMと涙を滝のように流す私。

終わった・・・結局ジュンコは幸せにならないまま天に召されました。

友人から進められて見てみたもののしょっぱなからドロドロしてました。

複雑過ぎてどう説明したらいいのか分からないのですが、

簡単にすると恋人一歩手前の男女二人が病気やら身分差やらを乗り越えられずにバッドエンドを迎えてしまったという話です。

生き別れの兄がどうか親友が相手に惚れてしまうだの毎回話がこじれていきます。

幸せになるんじゃないかと期待して最後まで見てみたものの

私にはついていけないようです。

悲恋ものは見えていてモヤモヤするのでどうも苦手です。

そこはガツといけよ！！と毎度思っています。

そこを楽しむべきなのか何なのか。

それにしても泣きました。

好き嫌い以前にこういうものは涙腺が崩壊するのでいけません。

隊長がいなくて良かったと思います。

帰りは夜遅くになるというのでまだまだ時間があります。

隊長はアルコールに強いらしく看病する必要も無いので安心です。

明日は朝早くに出て視察に行かなくてはいけないのでさっさと寝るに限ります。

そう思っていたのが間違いだったのか、  
次の日起きた私に待っていたのは現実逃避をしようとする脳を止めることでした。

これほど隊長と同居して後悔したのは初めてです。

私は隊長に無事つつこみを入れることは出来るのでしょうか。

## 同居十九日目、断固拒否。

朝起きて素敵な必殺の文字が書かれたアイマスクに私の目を保護してくれた事にお礼を言ってからベットを出た。

シンプルな文字だけというのも趣があつていい。

そう思いながらしつかりとアイマスク専用の棚へと収める。

棚の外見が淡いピンク色なのが空しさを増幅させてくれやがりませぬ。

そろそろ部屋の色相について文句を止めなくてはいけないと思うんですがこの家、

借家だから模様替え出来ないんですよ……。

心の余裕が出来るまで許して欲しいと思うしだいであります。

酔っていないといっても大量に飲酒しただろ隊長の為に胃に優しいものにしようと昨日調べておいたレシピを頭に叩き込んでリビングに向かうと居てはいけないものがいた。

しいて言えば生き物、信じられないことに人間の男。

もつと詳しく言つと同じ仕事場の男。

回りくどすぎて分からないかもしれないかもしれませんが私も分かりたくありません。

頭が混乱気味です。何でコイツがいやがるんだ。

ネイビー色のゆったりとしたソファに仰向けになりスピョーという寝息を立てている男に肘からダイブしたくなつたのは仕方のなかった事だと思えます。

無駄に可愛らしい寝息なのが殺意を増幅させてきます。

そこには私が苦手だと言っていた隊長の幼馴染。

クイール隊長が健やかに寝ていらっしやいました。

どうして此処にいるのかは分かりませんが、あまり同居している事を他の人間に知られないようにした方が良いという話は何処に消えていったのでしょうか。

どうせ連れて来るなら私の知らないところでやってきて私の知らないところで帰って頂きたい。

そしてクイール隊長が居るといふ事はこの人の食事の用意をしなくてはいけないという事でしょうか？

視察に加え食事の用意と朝早く起きているのにそれに加えこの男の世話までしなくてはいけないとは……。

ほんの少しの手間とはいえ、やりたくない事は誰しもあるはずですよ。

どうして此処までこの人を嫌っているのか疑問に思っているかもしれません。

それにはわけがあるんです。

普段、私は比較的温厚な性格だと自負しています。

それでも嫌ってしまう理由はまだ私が入りたての訓練生の時の事です。

その時の屈辱は忘れてたくても忘れる事が出来ません。

## 同居十九日目、そんな理由。

それは、談話室の近くを通りかかった時です。

クイール隊長は数人の男性と談笑していました。

遠目からでも爽やかな笑顔を浮かべているのが分かりました。

当時は訓練生の身分。

若くして出世した彼と接触するのは任務時ぐらいしかないだろうと思っていました。

すぐに通り過ぎようとした時思いがけない声が聞こえてきたのです。

「このルリ？　っていう女、目がでかくて気持ち悪いな！」

なん……だと？

おいおい待ってくれよジョニー。

いやいや、ジョニーって誰だよ。

大混乱している脳内ではジョニーが大暴れしていた。

「もうちょっとちっちゃくすればいいのにな」

そう言ってバサリと机の上に投げた雑誌には当時、私の嫁であったルリちゃんが上目遣いで表紙を飾っていたのです。

おiiiiiiiiiiii!!

おまつ!?

少女漫画程でかくないだろう!!

それにそのパツチリしたおめがiiiiんじゃろがい!!

よりによって気持ち悪いだとおおお!!

その時、脳内のジョニーと叫んでいましたよ。

そして私の目は、その雑誌を読んでいただろう男性の引きつった笑顔を見逃しませんでした。

貴方もルリリストなんですね。

同士よ……

敵はいつか取ってやります!!

熱くも悲しい感情が私の中に芽生えたのです。

他にも私の身長が低いやら、空気が読めない発言をしたり、

たまに遊びに来ては馬鹿でかい声で喋っているのも嫌でも会話が入ってきます。

私は大人しく書類整理をしたいんです。

隊長に話しかけているから近くにデスクがある私は直撃ですよ。

わざわざ私に近いところで陣取って会話しますからね。

隊長もよく喋りかけられながら仕事できますよね。

それと私の隊の女子はお茶くみじゃないんですよ!!

自主的にやっていますが……

うち、面が良いっていいですよねえ。

爽やかな顔をしているからってあんな暑苦しいの何処がいいんだか。

ケーキもつぐもつぐしながら喋るせいでいつ書類にケーキが降りかかるかそれも心配です。

まあ、私の分のケーキも用意してくれるのでちょっと嬉しですが。

そんなこんなでルリちゃんの怒りが大幅にしていますが私はクイール隊長が苦手なのです。

それにしてもこんな近くに寄っているんだから起きると思うのですが。

まだ時間があるので放置してご飯を作る事にしました。

テーブルの上にメモを乗せ私は早々と出勤しました。

隊長が起きてくるかと思っただら起きてこなかったので珍しく飲みすぎたのだからなと思ったので薬も一緒に置いて置きました。

二人でちゃんとわけて食べてください。

そのメモを書いたとき私はお母さんかと思い少しへこみました。

同居十九日目、そんな理由。(後書き)

結構くだらないですが、塵もつもればなんとやら。  
そもそも彼のキャラ自体が苦手らしいです。

## 同居十九日目、一人でお仕事。

賑やかな町並み。

はしゃぐ子供たち。

それを車の中から眺めている私は、早く現地に着かないかと願うばかりです。

何でかつて？

むさいんですよ！！

数人の男と一つの車に押し込められて耐えられるかと言われたらきつぱりと断ります。

護衛があるのは仕方無い事だと思います。

けどね、女子はおらぬのかと！！

大胸筋よりおっ　いを寄こせと！！

むっちりと隊服から浮かび上がる筋肉に吐き気が。

潤いが欲しいんだと叫びたい！！

実はですねこの軍、女性のレベル高いんです。

私の隊にも見た目グラマーで遊んでそうなのに純情真面目タイプのお姉さんが居たり

実力はあるのにドジッコの可愛い子ちゃんが居たり

何これリアルギャルゲーなの？攻略しちゃうの？

綺麗過ぎて二次元に見えるんだよこんにやろっ！！

という感じで萌えがわんさかあるんですが、まだフラグはたたないんですよ。

そもそもお前にフラグはたたないとか、そういうのいらないます。妄想するのはただなんですからちよつとくらいいいじゃないか！！

隊長なんてメキメキたつてやがりますからね。

隊長なんかルーシャちゃんを渡さないんだから！！

他の隊に居たときに合同任務で一緒に、襲い掛かられる魔物から助

けてくれた隊長に憧れて移動してきたなんてフラグがたつてもル  
ーシャちゃんはまだまだフェアリーなんだから！！  
私が無助にいたならば今頃！！

……ん？

話しが逸れまくりましたね。

別に妬みじゃないですよ。

そんな事より私、一応女じゃないですか、なので護衛が必要な時大  
抵女性も同行するんです。

ですが、今回は私一人なんです。

オンリーです。

嬉しくないです。

期待してただけにダメージがでかいのです。

せめてむさいのに両脇を囲まれたくないのでドア側に寄ったら危な  
いとか言われましたね。

まあ襲撃された時に危ないとかありますけど私ぐらいならやられる  
前にやれますし

ドア側の方が逃げやすいし攻撃しやすいんですよ。

なので、

「私が危ない？」

そう言っただけなら黙りましたよ。

ちょっと影が薄いですけど私強いので発言力も高いんですよ。

流石に隊長には負けませんが軍でも中々の強さだと思っています。

隊長はいいんです。

チートキャラだから。

何あの歩くリーサルウェポンみたいなもの。

ゲームだとあまりに強くて一時パーティーインすれども直ぐに抜け  
て言ってしまうキャラみたいレベルの強さだと思ってもらえれば

いいと思います。  
つち……

とか考えていたら目的地に付いたようです。  
いつの間にか町から離れ森の近くへ。

今日の視察の目的地はカマドウーラ総合研究所です。

何で私なんだと思うんですが、相手のご指名だから断れなかったんですよね。

今日は何をやらされる事やら。

同居十九日目、かちわりたい。前編。(前書き)

今回は副隊長が可哀想なことになっています。

そしていつも以上にあれです。

痛い感じの話になっているので今まで以上に変態なのは無理という方はお戻り下さい。

## 同居十九日目、かちわりたい。前編。

こうきたかー！ー！！

この仕事回したやつのだたまかち割りたいです。  
切実に。

到着した後、挨拶をされ紹介もそこそこに実験室に通されて  
視察なのに何でこんなに時間とってあるのかなー

とか

今日の視察目的は実地を含むー

とか

戦闘用の最新型のスーツの試作品関連

とか

だったような気がしてたら

私が、実地で確かめるようですよ。

つてもう着てますけどね！！

無駄にぴっちりしたスーツを！！

はっはっは

ちくしょおおおお！！

萌えない！！激しく萌えない！！

私は何故にこんなエロイスーツきてやがるんでしょうね？

黒い収縮性に優れていて動きやすく衝撃の吸収が出来るように身体  
の重要なところに魔法印が刻み込まれ上から服を着ても目立たない  
ように薄い宝石のような魔法力を高める補助道具が付いている。

下着もセットで着用するように言われそれも着用しているんですが

下着の線が見えているんですけどよね。  
指定してきた意味はあるのかと。  
下着の線の所為で余計にエロく見え……  
いやいやいやまてよ、エロく見えるのはいつもいかがわしいアニメ  
やら漫画やらを見ている私の汚れきった脳のせいで研究員から見た  
ら普通のデザインなのかもしれない。

いや、ねえよ!!

何で下乳見えてんだよ!! 防護力ゼロじゃねえか!!

とどこどころ切り込みが入ってるんだよ!!

まあね、まだ少し救いがあるのが一緒にきたうちの二人が同じよう  
なスーツを着こんでいることですかね。

下乳部分はいっていないごく普通の何かカツコいいと感じるような  
スーツなんですけどね。

あいてたらあいてたで気持ち悪いから嫌なんですけどあいてないの  
も腹がたつ。

これが乙女心ってやつか、なんちゃって……

そこで研究員の方を見ると冷静な目で見ているから私が間違ってい  
るかと思っただらばつりと

「このデザインにして良かった」

もろ狙ってやがる……!!

お前さてはアニオタだろう!!

髪飾りとかあったりして補助道具とかでどうのこうの言ってたけど  
それもお前狙っただらうと。

さりげに魔女っ子っぽいというか何処かで見たアニメの道具っぽい  
というか

研究員につっこみを入れて気にしないようにしていたのですが部下

達の視線がどうも胸あたりにいつているんですね。  
特に下乳に。

え？

私の隊に居る爆乳天使と異名を持つティアラちゃんならいざ知らず私をちよっぴり熱を込めた目で見てるような。

それともいい年してそんな破廉恥な服着てんじゃねーよとかそういう事でしょうか？

そっちの方がいいな！！

ちよっ！！誰だ！！ケツをガン見してる奴！！

お前か！！スーツを着ていない組のいかついスキンヘッドからの視線がいたたた！！

「それでは組み手をしていただきます」

やっとなの？

今までの沈黙なんだっただの？

「二対一でブラウリー副隊長が受ける形をお願いします。私共は邪魔にならないように別室から見させてもらいます」

そう言っただけ私達三人を残して部屋から出て行く。

数台のカメラがあるのでそれを見ているんでしょうが、これ、残るよね？

こんなの着てるの資料として残されちゃうんだよね。

「よろしくお願いします」

うん。やる気だなお前ら。

こうなったらやってやりますよ。

二人がかりだっただけ負ける気はしません。

「いつでもどうぞ」

私の羞恥心を貴方達で発散させてもらいます。

## 同居十九日目、かちわりたい。後編。

最近実践をしていなかったせいかな動きが鈍っているような気がします。

私ではなく部下達なのですが。

私はイメトレという名の妄想をしているので常に準備万端です。

軽く攻撃をかわしながら見ていると連携があまり良くありません。

基本的に騎獣に乗っての攻撃や散らばって戦う事が多いので仕方が無いのかもしれませんが隊長に言って連携の訓練を増やした方がいいかもしれませんね。

魔法や武器無しだと良くわかります。

指示を出しつつ攻撃をしてはいますが暇なので部下の紹介でもすることになります。

「ファラン脇が甘い」

今、脇が甘いと言いつつ脇腹に回し蹴りをして転倒させたのがファランとって落ち着いた茶色い髪に若葉色の瞳をもった好青年です。清楚な女性に好かれるらしくよく差し入れを貰っているのを見ます。リア充は爆発しろ!!!

「トラン、動きを良く見ろ」

殴りかかった右手を掴み後ろに捻り上げファランの方へ蹴り上げたのがトランとって

ファランと同じ茶色い髪ですが金色に近い明るい茶色で髪の毛と同じ色の瞳をしています。

トランも女性から良く差し入れを貰っていて、照れ屋な一面が年上の女性に人気があるらしいです。

リア充は爆撃される！！

そしてスーツを着ていない組みの私のケツをガン見していたスキンヘッドがギース。

大柄で強面ですが、根は優しいテンプレですが変態疑惑浮上です。最後にギースとは対照的に身長は高いですが線が細く気弱そうに見えるキカート。

私は彼を実は鬼畜だと思っています。合計四人のむさい男を連れていました。

だんだん説明が雑になっていきますが気のせいじゃありません。正直めんどくさかった。

部下のことを考えていたらあちらも満足したのか終了のお知らせがスピーカーから流れてきました。

イケメン野郎だとは思っていましたが声まで良いとはあの研究員こんな変態なデザインをするくせに羨ましい。

名前は確かノーゼラトウスとネームプレートに書いてありましたが、いかにもな感じで私は好きです。ゲームのキャラにいそうな意味で。

最後に二人を軽く吹っ飛ばしながら終わりにしました。

八つ当たりをして申し訳ないが訓練が足りない己を恨んでください。二人を蹴り上げた時に足を大きく上げましたが動きの妨げになりませんし、生地は薄くてその上から服を着るのは楽でしょう。

二人の様子からショック吸収にも優れているようですし魔法のサポートは試していませんが見た感じ良質であるみたいです。

着脱も簡単に普段から着用出来るとは思いますがこのデザインかと思つと……

下はまだいいとして上の下着を着けることが出来ないのも心もとな

い  
です。

そして着用している事を知られたくない。

という事をデザインの事は避けつつノーゼラトウスさんに言つと資料の為に写真を撮らせて欲しいと言われました。

お前、趣味だろうと私は言いたい。

どんなにその面で誤魔化そうとも私は騙されません。

お前からはオタクの匂いがするんだよ！！

オタクにはオタクを見分ける能力があるんですよ。

ふふ、自慢じゃないんですけどね。

既に数台のカメラで撮影されている事は知っているのですが、それはそれだろうと顔を映さないのであればいいと言つたら却下されました。

何故に。

全体の資料が欲しいやら頭につけた補助道具も一緒にくとかもう欲望のままに言われ何故か部下の強い勧めを受けて撮られることになりました。

お前ら進める意味がわからん。

絶対撮つた方がいいです！！つてそんなにこのスーツが好きか変態どもめ！！

私も人の事言えないのが悔しい！！

心の中で悔し涙を浮かべつつ別室の撮影用の部屋に通され撮られまくりました。

組み手の動きや色んなポーズは分かりますが下からのアングルとかは趣味ですよね。

ちよっケツに視線があー！！

色々な恐怖に怯えつつ乗り切りやっと撮影から解放され着替えることが出来ました。

もう私のライフはゼロよ……

このスーツは全身を覆うタイプなので私の隊服だと下に着用したら見えてしまいます。

説明してませんでした。短パンにニーソなのでそこはどうなのかと聞いたら希望があればオーダーメイドも出来るので問題はないとのことです。

今調べて改良しておきますと言われ女性の方に採寸されました。というかこのスーツを私が使う事は決定なんですね。

もしかしたら着なくても良くなるかもしれないと思っただけであちらの方が上でした。

ギリギリとご協力ありがとうございましたと挨拶するノーゼラトウスさんに殺意を滾らせつつ帰還して、

午後から仕事に出ていた隊長に今日の任務の報告をしにいきました。報告書は車内で作成しておいたので渡すだけなので今後の訓練内容について話そうとしたら物凄く眉間に皺がよった険しい顔をしていました。

とりあえず報告をしようとしたら知っていると言われ数枚の写真を出されました。

ええまあ写真と言ったら今日のスーツの写真ぐらいしか今出てこないんですけどね。

若干恥らった感があつて爆死したくなるんですが。

何故こんな事をしているんだと写真を人差し指でとんとんされても怖いだけです。

この仕事をしると言ったのは隊長じゃないですか。

それにしても

何で写真手に入れてるんですか隊長。

何で写真見ながら悔しそうな顔してるんですが隊長。

何で懐に写真しまつてやがりますか、たいちよおおおお！！

あの……データと写真返してもらえないでしょうか？

その日一日隊長の機嫌が悪く、クイール隊長の事はうやむやになりました。

怒った隊長怖いです……

後日、スーツが完成したというのをむつつりとした顔の隊長から言われました。

このスーツを着用するのは今のところ志望制だそうで、私は協力した為とモニターの為に使用が決定付けられたと。

私が着る事は前から知っていたので良いんですが隊長の顔が怖くてどうにかならないかと思いました。

どうせならこのエロスーツ、ティアラちゃんに着ていただきたい。

あつても上から服を着るから見れないや。

同居十九日目、かちわりたい。後編。（後書き）

何故、写真を隊長が持っているかという点、ノーゼラトウスさんが素早く無駄な気をきかせてデータを送ってくれました。

この隊のデータ管理は隊長と副隊長は、ほぼ共通なので隊長が簡単に受けとれたということです。

見た隊長はプチ切れ。

早速現像してちゃっかりもらいましたが。

いつか別視点を書きたいという希望を持ってメモしておきます。

## 同居二十二日目、心とかそんなの。

ペット……

飼いたいなあ。

どうも心の癒しを求める私です。

今日は私一人が休暇です。隊長は馬車馬のように働けばよろしいかと。

隊長のとどめにより、私の心はまだ粉々です。

修復するためにちまつこい何かを求めているんですが傍に居るのはでかい生き物なんですよね。

隊長とか、部下とか。

視界より下の生き物に囲まれます。

つぶらな瞳の生き物に見上げられます。

無理か。

隊長でかい生き物はすぐに手懐ける癖に小さい生き物に威嚇されるんですよね。

懐くところらが引くぐらい愛されるんですが、そしたら私が構って貰えなくなるじゃないですか。

目の前で楽しそうに戯れる一人と一匹。

妬みのあまり隊長に嫌がらせしてしまっそうです。

そういうば最近友人と会話していませんね。

暇だともいいことを考えてしまう。

別にゲームでどうしてもクリアできないところまで来て不貞腐れているわけでは…。

気持ちを切り替えて癒しを求めるには彼女しかいない。

確か今日は非番だったはず。

電話でもかけてみますか。

「はい。もしもし」

「ハアハア奥さん今何してます？」

「貴様の処刑方法を探しておる」

「是非ともその手できゅっとー!!」

「だが断る!!」

「ちえっちわーっす」

「はいはい、どうしたのー？」

「寂しかったから構って」

「しょうがないな喜びにむせび泣くがいい!!」

とか何とかいきなりの電話にノリノリで答えてくれる彼女、マルカは結婚式の企画をする仕事についてます。

休日に行われるので休みが平日の彼女とは良く遊んでもらってます。見た目は花嫁さんのような彼女なんです。口調が男前です。

周りで結婚している友人が居ないし出席するのは軍関係の硬い結婚式ばかり。

普通の結婚式が気になり仕事でどんな事があるのかと聞いたとき、夢……壊れるぜ？

いつも口調はアレですが、声音は、ほわほわしてる彼女から放たれた重低音の声。今でも忘れられません。

私、結婚には夢見ません。

略奪愛とか政略結婚とかが目立つ所為で聞かない方がいいそうです。そんなにストレスが溜まっているのかと心配になったのは仕方が無い事だと思います。

それから聞いた事が無いのですが結婚式は私に任せなと言った彼女におかつつあぁん！と抱きついたのは最近の事です。相手が居ませんがね。

電話の最後に旅行に行く約束をして終わりました。

メンバーは全員女性ばかりですが彼氏の有無を聞いたら命は無いとだけ思ってください。

それだけで全て分かります。

## 同居三十五日目、節目には祝福を。

どうも、おはようございます。

ピンク色の部屋を可愛い女の子に変換する事でなれました。

今日も大変かわいらしゅうございます。

名前はピクルルたんです。

今後は毎朝挨拶する事で解決です。

朝から可愛い女の子に挨拶して起きれるなんてなんて幸せなんだ。

お姉ちゃんと呼んで下さい。

さてさて、毎度ながらどう説明したらよいものか悩んでいます。

これを私はどうしろと。

いや、これと言っては失礼ですね。

しかし、それ以外私の寝起きで緩んだ脳から搾り出せてこないの  
仕方がありません。

とりあえず寝る前に飲んだ栄養剤腐ってたかどうか調べる必要があ  
ります。

リビングにふっさふさの何かでかい生き物とちっこい生き物がいる。

昨日までは居なかった。

というか心配すら感じなかったのはどうしたものかと。

これは退役するしかないのかと考えつつ、私がきょどっているとぬ  
つと影から

「嬉しいか？」

と言いながら隊長が出てきました。  
何に対して喜べと。

「小さい生き物が好きだろう？俺は大きい生き物が良いから両方に  
してみた」

いやいやいや

どや顔されても困るんですがそれに私がちっこい生き物が好きなの  
を何処で知った!？

この前の会話聞いていたんですか？

盗聴ですか隊長!!それともサイコ的な何かですか!？

とか思ってたら大分前に言っていたのを覚えていたらしいです。  
出来る男とはこういうことか。

ところで何ぞと思ったら今日はちょうど同居一ヶ月目だそうで世話  
になっているからと前から準備していたとの事。

贈り物がお好きですね。

私何も用意してませんよ。

前日に食材が安く大量購入していたので何食わぬ顔で晩御飯は豪勢  
にしたいと思います。

それにしても、またもやどや顔で言われました。

隊長のどや顔はとても美しいのでちゃんまいぶる震えている方の  
生き物の肉球でぶにぶにしまくってやりたいです。

気配に気付かなかったのは隊長の魔法の力らしく隊長と私の格の違  
いが見せ付けられたようです。

種類を聞いてみると成長すると人型になれるだの聖獣とか呼ばれて  
ただの、

それ程希少な生き物だったと思います。

値段を付けることすら出来ない希少な生き物をペットって。

せめて護衛獣にするとかあるでしょう隊長。

産まれたばかりだから休暇が増えるという特典もあるらしいです。軍もバツクアップするペットって……

隊長って同居言い出しやがったあの人と仲良かったですよね。相談したんですか？

あの人に話題提供してどうするんですか。

その辺は今度話し合うとして今はこの二匹ですよね。

飼う事は決定していますし、もふもふの生き物に見つめられたら仕方ない。

ちよつど癒しを求めていますしちっこい方のぶるぶる具合は大変私好みでございます。

性別を聞いてみるとでかい方がオスでちっこい方がメスらしいです。種類は違えどちっこい方はでかい方に懐いているので問題は無いようです。

存在は知っていましたが生態には詳しくないので心配ですが自信満々の隊長が居るから何とかなるでしょう。

というわけで同居人が増えました。

テスカ（仮名）ちゃん

ファニール（仮名）さん

です。

なぜかファニールさんは君付けできない気迫があります。

名前は各自簡単に付けました。

名づけ本が活躍しそうです。

とりあえずご飯は何なのか教えてください隊長。

私これから隊長のご飯とか用意しないといけないので時間が無いのですが。

同居三十五日目、節目には祝福を。(後書き)

この世界は三十五日、二十四ヶ月で一年です。

年の数え方は年二回で生まれた月の十二カ月後を双子月としてもう一度祝います。

この世界の神話とか関係してますが出るかはわかりません。

ちなみにこの世界双子は誕生日を無駄に祝われます。

知らない人までやってきて双子すげえとかいいながらお祝いしていきま

プレゼントを貰ってお得感バリバリですがお人よしが多く才能溢れる人物が多いからかもしれせん。

けれど才能無くても性格悪くても気にしない大雑把な人間ばかりが寄って来るので大した事も無く。

双子って良いねぐらいの認識です。

## 同居三十五日目、それは危ない。

徐々に馴れてくれたのかテスカ（仮名）ちゃんとファニール（仮名）さんが近付いてくれるようになりました。

敵意が無いのが漏れ出ているのでしょうかね。

隊長に寄り付かないので若干寂しそうにこちらを見ていますがスルーです。

そんな目で見てても可愛らしい毛玉とごつい男だったら毛の集合体を私は選びます。

どうしても構って欲しいならケモ耳を生やしてごらん下さい。

……ちいつ忌々しい！！

想像したら似合うじゃないですか。

認めん。

認めんぞ。

ケモ耳が合うのは二次元だけにしろと言いたい。

とりあえずご飯は用意してあるとの事でチルドパックに一食ずつ小分けにしてあるのをチンしてあげればよいとの事です。

何だかとても美味しそうな匂いのでくる豪華な食べ物で、セレブの匂いが部屋に充満して私泣きそうです。

他の世話はブラッシングだとか専用の浴室を作るからどうのこのこの説明されましたが、もう自由にして良いと思います。

工事の音さえ聞こえなければ大丈夫です。

別にこの家に他人を入れたくないというわけではありませんので。流石に庭の手入れまで出来ないので業者に頼んでますしね。

隊長のお抱えの人らしいです。

ちよっと目尻に皺のあるカツコイイおじ様でした。

つなぎを着ているはずなのに溢れ出るダンディズム。  
さり気に彼が来るのが楽しみだったりします。  
私の淹れた紅茶が楽しみだと言ってくれましてね。  
これが青春かとドキマキしてしまいました。

まあ、そんなのはいいんです。

今は目の前の子達です。

休みが増えても有給扱いらしいですし何にも問題点は無いです。  
さてはて次は何をしようかとふと隊長を見ると見てはいけなかった  
と後悔が押し寄せてきました。

隊長わかりました。

今日は隊長のお好きなものを作ります。

だから幻覚を見せないで！！

頭上に垂れた耳の幻覚を見せないでえええ！！

しよぼんと垂れた尻尾なんてあるはずが無いんだから！！

三次元萌えなんて絶対しないんだからああ！！

同居三十五日目、それは危ない。(後書き)

ペットの名前に悩んでいたら間が空きました。

結局決まらず飯のまま進行です。

良い名がありましたらコメントにでも。

ティンと来たら使わせていただきます。

どうもしっくりこない。

## 同居三十八日目、気のせ……

名前

それはほとんどの人間が産まれて最初に贈られるものだろう。

彼らはペットですがいつまでも（仮）のままではいかなものだろうか。

そして読み上げるときは是非とも、かつこかりかつことじる。と読み上げて欲しいと思う私がいいます。

というわけで呼ぶときに毎回私がテスト力かつこかりかつことじるちゃんと呼ぶ所為かどうしても長くなってしまいます。

ポリシーなので仕方がありません。

ちなみに私のこのポリシーのお陰か軍内では試作品などに（仮）を使う事がなくなってしまいました。

読み上げるの密に好きだったんですがね。

誰も私につっこみを入れないのがいけないんだと思います。

という私の話はどうでもいいとして私はメスの方の名前を付けることになり、今は自室で漫画を見ながら考えています。

萌えるような名前にしなければと思うと名前が決められていません。胸が熱くなるようなそして一般人にわからないような自然な名前。

中々難しい問題です。

三日も立てばこの名前前で定着してしまいそうなので今日中に決めようということになりました。

名付け本と一緒に見るかと言われたのですが一冊と一緒に見るなどと薄ら寒い行動を何故取らねばならんのだと思ひ拒絶させていただきます。

いえ、本当はやっぱりとお断りしたんですが、何故か隊長に手酷い仕打ちをしたかのような心境になりました。

しかし膝の上に座らせさせられそんな雰囲気はむんむんするんですよ。

ギャルゲーのやりすぎでしょうかね。

お兄ちゃんと一緒に膝の上でお勉強 みたいな。

いやいや、隊長が若干身体と机との空間を空けたのは勘違いでは済まされない何かがあります。

いや、忘れよう……

こう、愛称で呼べるような名前がいいですね。

五冊目に取り掛かりこれだというものがないまま時間は過ぎていきます。

このままだと私にとって良くないことが起こりそうな予感がするの  
で何としても一時間以内に決めなければいけないというその時私は  
思い出しました。

耳の形が二年前放送していたアニメのフラウという萌えキャラに似  
ている事を。

むしろ全体的に似ているとかそうとしか見えない。

しかもフラウという名前は頻繁には使われてはいませんが縁起のい  
い名前として使われていたはず。

おいおいおい

これいけんじゃね？

やっっちゃってもいいんじゃね？

しかもフーちゃんと呼べる……！！

欲望のままに隊長に報告するとその名前で決まりました。

オスの方はアルタという名前はどうかというのでネーミングセンス  
までありやがるのかこのお人は素敵ですね。

と捻くれてみました。

何でも古の聖獣がこの世で始めて言葉を発した時の一部らしく守るものやら光なんやらの意味が込められているらしいです。  
すみません萌え重視で選んで……

それにしても名前が決まったと言ったとき一瞬見えた悔しそうな表情は気のせいですよね。

隊長が自分の膝を見つめていたのも気のせいです。

そして私がそんな危機感抱いたのも気のせいです。

名前が決まったので首輪を注文するからとカタログを広げた時隊長が恐ろしく見えたのは気のせ……

この後の事は羞恥心で人が消えられるのだとしたら私は既に消えて無くなっていると言えれば察しのいい方はわかってくれるでしょう。

## 同居四十六日目、食用花の有効活用

あーもー可愛いなあこんにやろう

あれかあれなんかちゅっちゅして欲しいのかこのやろう

フラウたんめこのやろう

もっふもふやんなあ

ん？

フラウたんもおっちゃんの事好きかい？

おっちゃんも好きだよー！ー！！

と戯れていたら

野郎共に無駄な連帯感が生まれていました。

そんな娘を見るような目で見るな！！

私を見るなあああ！！

おとうちゃん！！なんて言いませんからね！！

特に隊長、貴方バツクにお花の幻覚が見えるんですが、むしろ魔力でリアルに花が飛んでいるんですが。

素晴らしく似合っております。

素敵です。

ですが私には理解できない趣向です。

ギャグ以外で男のバツクに花が飛ぶのは笑えません。

アルタさんもごっつい体型して見守る目はほわほわしゃがって可愛いじゃないか。

そもそもなんでこんな状況になったかというと。

忌まわしいあの日から五日が過ぎた晩に隊長が首輪を片手に帰って

きた時からです。

一緒に選んでしまった首輪は大層フラウたんにも合っておりまして、思わず抱き上げてにへあつて笑ってしまったのが衝撃的だったようで隊長がビクウっとなっていました。

いやね、オタク歴十二年の私がですよ？

幼児の頃ならいざ知らず、己の本性を隠すプロとまで自認する私が瞬きするより短い一瞬の笑みを見られた事に吃驚しました。

どんな動体視力してやがんだと。

貴方の目は……いやチートキャラに文句言っても仕方ありませんよね。

光り輝いていればいいと思います。

その後おもむろに懐からカメラを取り出しバシバシと撮られその様さまに初孫を喜ぶ祖父か娘が産まれた父親のような光景でした。

過保護にフラウたんを守っているアルタさんならこの現状をどうにかしてくれる！！

と思った私は浅はかでした。

もっとやれと目が物語っておりました。

カメラを理解していなくとも自分に有益であると判断したんでしょう。

過保護なら止めるんじゃないかと疑問が起きるでしょうが一応観察してみたところ、

アルタさんと一緒にいるフラウたんは大人しいのですが私だとでるでつるに甘やかす駄目人間だというのが分かっているのか甘え放題なんです。

しつけはしますがそれ以外は甘いです。

もう歩くだけで興奮する。

下斜めから眺めていたい、肉球に踏まれたい、そんな人間に遠慮はいるかとはかり甘えるのでアルタさんは嫉妬を通り越して幸福を覚えたいようです。

クールな顔して中々のダメ男っぷり。

将来絶対に尻に敷かれるタイプです。

そんな日が続き、表情筋の修行をしつつフラウさんの可愛らしさに耐え切れない私は戯れる事をやめられないのが現状です。

最近ではカメラの技術が上がっているのか隊長のスキルにギリギリと嫉妬するばかりです。

何だかむずかゆいので止めて欲しいのですが野郎共の混じりたいという空気をスルーするので手が一杯です。

ちなみに隊長のバツクに散らばった花は食べれません。

生でよし、お菓子に混ぜてよしと大変美味しいのですが、何故食べれると分かったんですか隊長。

同居四十六日目、食用花の有効活用（後書き）

Q どうしてバツクの花が食べられると判明したんですか？

A 例の幼馴染が幼少時に食べたからです。

幼少の頃、偶然懸賞に当たり珍しく喜んだ隊長はバツクに花が飛び散りました。

微かに香る甘い匂いに幼馴染あの男が掴み取り食べたのが始まりです。

隊長が喜ぶのは滅多にないのでレア食材扱いです。

金持ちの癖に意外と庶民的なことでは喜ぶ隊長。

懸賞は季節の果物盛り合わせでした。

## 同居四十九日目、大きなアレの予感。

久しぶりに外に出る仕事かと思えばまたもや会いました。オタクで良い声したノーゼラトウスさんです。

またもやあの研究所だよ！！

今回はどんなのだと戦々恐々と行ったわけでは無く、近頃凶暴になり被害が拡大している魔物に対する調査を請け負っていたノーゼラトウスさんのチームと

私の部隊専属の調査部隊の隊長とともに今後の討伐に対するミーティングを機材のある研究所でという至極真つ当な用件できました。今回同行してくれた隊長さんはシュイトさんという方です。

私の護衛は無しです。

運転はシュイトさんがしてくるのであるのでのむさ苦しさからは解放されてちよっぴり嬉しいです。

シュイトさんは顎鬚が似合う素敵なお男性ですが顎鬚が苦手な私は右手が疼きます。

合流したノーゼラトウスさんと共に部屋に入り顎鬚を筆りたいとその衝動を抑えながら会議が始まりました。

ノーゼラトウスさんの話によると魔物の暴れ方が通常ではありえない行動をしているらしく、人の手が加えられているとしか思えないとの事です。

その魔物はグルーという名で群で行動するという習性を持っていて知能も高く戦闘能力も高いので何度か討伐しましたが倒すのは中々厄介な相手です。

その群で行動するはずの魔物が単独で行動するのが目立つようにな

り凶暴性も増し離れたところにも出没するようになり始めた。  
捕えてみると脳が萎縮し、目が黄色に変色している。

病気の可能性も考えてみたが菌は発見できなかったが数値に異常が  
合ったり刃物で同じ場所を切られた跡が合ったりするという。

もうこれは黒ですよね。

そこで今回それに関わっているのでは無いかという人間を知ってい  
るらしいです。

何でも製薬会社で働いていた研究員が数年前に薬の密売をして捕ま  
ったのですが、裏金を使い出た後、行方が分からないらしいのです。  
その研究員は製薬会社で働く前に国が投資していた生物兵器の開発  
に関わっていたらしく、現在それだけの事を出来るのは彼しかいな  
いのではないかとの事です。

他に出来そうなのは国の管理下にいるので一番有力との事です。

それ以上の事は研究所で把握するのは難しいのでこちらにお任せす  
ると。

その件については軍ではなく元老院の管轄だったので情報の遅れに  
なつたようです。

あそこは研究員やら政治家やらが蔓延る無能なんだか有能なんだか  
良くわからないところなのでこういうミスもあるんだろうなあと思  
えてしまいます。

生物兵器何て後ろ暗い研究をしていた人間に監視をつけるのは当た  
り前のように思えますが当時は戦争が多発してごたごたしてい  
たのでその際にとりう事でしょう。

よくある事ですよ。

その尻拭いは軍にいる私達がする羽目になるんですよ。

愚痴はさておき、その人物の調査はシュイトさんの部隊に。

グルーの捕獲や討伐、近辺のアジトを探るのを私の部隊。

引き続き魔物に関する調査を研究所でという事で決まりました。

期間からすると既にその辺は引き払われているのではないかなと思

います。

そこまで素人じゃないですね。

資金提供している人物の調査もしなくてはいけませんし、此処のところ平和だったせいも積みゲー攻略の道のりが遠くなったような気がします。

三本同時発売とかそんな貴様ありがとうございます。

帰り際に新兵器の開発に成功したのでご協力願いたいという不穏な言葉をノーゼラトウスさんからいただきましたがスルーさせていた  
だいてよろしいでしょうか。

## 同居五十二日目、フラグ発生。

オラ盗賊さ狩りにいくだ！！

というわけで、斧を片手に盗賊討伐中です。

案の定アジト付近は引き払い済みなので他の方々に情報収集を任せて私は別任務を隊長と三人の部下と共に寂れた館にやって来ております。

どうして雑魚っぽいのは薄暗いところに集まる習性があるんでしょうね。

場所の特定がしやすいとか思わないんでしょうか、こちらとしてはこういうところを探せば見つかるので楽なのですが。

気配を探ると地下に盗んだ物を隠し地下通路から運搬しているようなので通路の出口に二人配置し、私と隊長ともう一人で突撃という形になりました。

屋敷は隊長が結界で取り囲んだので見張りなどがいても隊長が感知してくれるでしょう。

大きな屋敷一つを丸々囲める隊長の魔法力の大きさには感服します。私では精々半分が限界だと思います。

実力の差を毎日のように感じさせられますが気にしてたら心がブレイクするので早々に諦めております。

隊長の合図で止まると目的の場所についたようです。

中々頑丈そうな扉で、小物の癖に魔法の力で扉を閉じていやがりますね。

大きな銃器が無いと開けられないと考えたのですが、考えが甘いです。

私の斧の力にかかればこんな扉こんにゃくのようなものです。

隊長の合図でそいやと魔法ごとぶち破ってやれば盗賊とのご対面です。

まさか突破されるとは思わなかったらしくわたわたしているところをあつさりと捕まえて尋問タイムです。

部下が尋問をかけているのをBGMに隊長と盗品チエックです。こんな雑魚相手に私たちが二人も来ているのも盗品の中に上層部が管理している古代の武器が紛れ込んだかららしいのです。

最近上層部のミスや黒い部分が出てきすぎなような気がしますが周期的におきるイベントのようなものです。

おっと、盗品も無事に発見したのですが、尋問はまだ終わらないようです。

まだ漁ると緑色の液体を見つけたのでこれはノスさんに見てもらおう事にしましょう。

どなたとここで繋がっているかわかりませんからね。

ちなみにノーゼラトウスと一々言うのがめんどくさいので今では略させてもらっています。

心の中でこっそりだけどね!!

何となくあの人をつついたらめんどくさい事が起きる気がするので当たり障り無く接していこうとは思っております。

他にも雑魚の癖に色んな情報を知っているもので今回の任務は簡単な割りに良い収穫がありましたね。

隊長も心なしか喜んでいるようで一気に八人の縛った盗賊達を引きずっていききました。

合流した部下も涼しい顔をして男を引きずる隊長にまたかという顔をしてスルーしています。

もつと凄いものを引きずってたこともありましたからね。

あの時は部下と一緒に遠い目をしてしまったっけなあ。

さて今日はこの後も書類整理があるのでさっさと戻りますか。

盗賊の今後は知らない方が身の為なので忘れた方がいいですよ。



## 同居五十三日目、フラグ進行中。

素敵な素敵な緑色のお薬は使ったらどうなるの？

毛が生えます。

そんな緑の液体。

どうしてそんなものが盗賊達の持ち物にあった。

現在捜査中ですが、とても完成度が高いようで何かわかるかもしれないだの材料がもしかしてとか言っていました。

一日で毛が生える薬だとよくわかったなと思ったら開発していたらしいです。

おい、まてとか思ったりしますが、士気も上がるので黙認していたのでしょうか。

男達の永遠のテーマ毛生え薬。

上層部やお悩みの男性群が歓喜の雄叫びを上げていました。

私たち女性群はドン引きでした。

何処から情報が漏れたのかと問う以前にかなりのオープン具合で高速で軍内に出回り誰もが知る事実となりました。

一応重要なものは伏せられているので御安心下さい。

この件が解決したらありとあらゆる権力を使ってこの薬の権利を独占するらしいです。

大人って汚い。

ちなみに軍割引が効くらしいので知り合いにでも贈ってやろうかと思えます。

何度も髪を染めるものだからまだ十代といううら若き乙女の弱りきった毛が心配で溜まりません。

盗品のチェックや情報を集めてみるとこの男達は直接関係していないのですが、盗品を売っていた人物が最近追いかけていた人物だと判明しました。

こんな下っ端とよくもまあ大物が関わっていたと思っただら下っ端なりに優秀だったらしく何かと使われていたようですね。

この感じからそろそろ捨てられようと思っていたと思いますが、その前に捕まえる事が出来たのは幸運でしょう。

大体このような感じでまとまりました、  
隊長はふさふさなので毛生え薬など必要ないでしょうが、この薬についてどう思っているのでしょうか。

すこし前になりますが、隊長の家が主催するパーティーに何故か連れて行かれた事があるのです。

その時拝見した隊長の父君はふさふさなので遺伝的にも安心でしょうね。

年齢が近ければ双子と言われてもわからない程似ていました。

お二人とも単語で会話していらっしやいましたが私にはさっぱりわかりませんでした。

その日は体調を崩していたらしく母君のお姿を拝見できなかったのは残念です。

なんでも父君が溺愛していらっしやるそうで、愛妻家としても有名なお方ですからね。

そうは全く見えませんでした。が近くに居ないと分からないのでしょうか。

もうパーティーには参加したくありませんでしたけどね。

ちなみにドレスを着ていったと思っただ方は残念でしょうが私がそんなものを着るはがありません。

軍服で行きましたとも。

多少隊長の視線が痛かったような気がします。お断りいたします。

そもそもドレスとか何処で買えば良いのかすらわかりません。  
庶民を舐めないで下さい。

## 同居五十五日目、それが手口というもので

捜査は進んだり止まったり下がってみたり道に逸れてみたりを繰り返しながらしていますが別の方向でノスさんのボルテージが上がっております。

ギリギリと私の機嫌は下がっていますが、今日は別の場所で類似した魔物が見られたので捕獲しに行くところです。

大型を通り越した巨大な上に凶暴な魔物なので隊長と私が行く事になりました。

私は行く必要は無かったです、ノスさんが私で実験したいのとかほざきやがったので事務処理したいのに連れ出されました。

あの野郎本気で語尾に星が見えやがった。

そして私はモルモットとなり、前回はエロス重視のボディスーツでしたが今回は機能重視で前ほど酷くないスーツを着ています。

なので問題は無いのですが、隊長も着てらっしゃるんですよ。

これがまた何処のラスボスですかという貫禄で、軍が正義の軍団と  
言う気は更々ありませんが、その隊長である人物が、

あれ？この人今から世界征服しにいけますか？と聞きたいような風  
貌になってしまっています。

黒に赤の増幅魔法がかけられた線が全身に走りそれが明るい赤なら  
まだしも禍々しい赤で遠目から見ると血に見えなくもないです。

腕と脚はゴツゴツとしている素材で当たったらさぞかし痛いのだ  
ろうなという攻撃を目的とした形状で関節部分や腹部などは光沢の  
ある素材で昆虫のような形をしています。

それがまた恐ろしく精巧な出来で関節の動きや吸収性を助ける形状  
なのでしょうが恐怖を煽る形状となっています。

それに隊長の銀髪が映えるものだから何とも言いがたいです。

極め付きに背中には十五cmくらいの突起物が邪魔にならないよう

に六つついておりそこからサポート用のビット兵器が射出されるそうです。

チームを出したり隊長の魔力を流す事で通常より簡単に防御壁が貼れたりするらしいです。

それを隊長の魔力で動かして使う事ができると。

行動しながらの遠隔操作は難しいのですが、隊長は易々とやってくれたのでノスさんは大興奮です。

これがまた回りを飛ぶとラスボス戦のようなオーラが出まして、部下達も目を逸らしているのですがノスさんは大変満足した顔を私と隊長を交互に見ながらニヤニヤしています。

そのニヤニヤした顔も様になるのだから世の中の不平等さを嘆くしありません。

ノスさんはノスさんと隊長と並ぶと悪の科学者のようになっていきます。

私も並べば仲間のように見えるんでしょうかね。

部下達も隊長や私に劣るとはいえ同じようなスーツを着ているので戦闘員のようにです。

私はさしずめ幹部と言ったところでしょう。

と、まあ、スーツ説明はこれぐらいにしておいて隊長と五人の部下達と草原を移動中です。

一人は撮影係なので戦闘に参加するのは実質六人ですね。

ノスさんから離れたので騎獣に乗っての移動で私の騎獣は鼻が聞くので軍内で保管してある鱗で追跡しつつ行動しています。

発見しやすい巨体といっても広大な草原を探すのは一苦労なのでこういう時、騎獣がいてよかったと痛感します。

しかし、一時間が経過しましたが未だに発見できません。

もしかしたら実験に使われた事により匂いが変わってしまっているのかもしれない。

早く終わらせてしまいたいという切実な願いがあるのですが。

何故か隊長が私の事を常に見ているからです。

視線で焦げてしまいそうというのはこういう事なのです。

初めて体験しました。

ノスさんと別れる前に私をちらちら見ながら何かを喋っている。それに関係することだとは思いますが検討が付きません。

隊長とノスさんは今回の事件で分かったのですが仲が良いらしく度々二人で喋っているのを見かけます。

何やら写真を渡したりしているのを見ますが資料だとしたら私にも見せるのでしょうか。そんな気配はないので個人のものなのでしょう。しかし、隊長の交友関係を知らないのですが、ノスさんと仲がいいのは意外とも言えます。

まあ、隊長の事はわからない事だらけなので今更考えたところで仕方が無いのですがね。

それにしても視線が私から外れません。

何か可笑しな点があれば部下達も私を見てもいいものですが、皆視線を僅かに逸らしているのも気になります。

気になりますが今は任務中なので後で考えることにします。

それから二時間、更に探索するとようやく発見できました。

話によると僅かに形状の変化が見られ色もピンクに変わっているとわかっていますがあまりの変わりように二回もこれであっているのかと聞いてしまいました。

その魔物はドピンクの鱗を輝かせ、大量に生えたまつげが動くたびにバサバサと動く非常に気持ち悪い姿に変わり果てていました。

どうしてこうなった。

同居五十五日目、それが手口というもので（後書き）

ビット兵器とは遠隔操作の出来る小型兵器です。

多分。

ぐぐってみたらそうでたんであつてるとは思います。

ファンネルやらなんやらがでてきました但し分かりやすそうなのを選びました。

他に表現の仕方はあるかもしれませんが、ガ ダムや兵器は範囲外なので間違つても流してください。

## 同居五十五日目、ただの残像だ

おっおっおっおっ？

たっ隊長がああ魔物に突撃しやがった。

思わず変な声を出してしまったではないですか。

打撃音で周りには聞こえていなかったとは思いますがね。

素早すぎて見逃しかけましたが、隊長の指の動きで指示を出したのが見えました。

隊長が攻撃をして様子を見てから総攻撃という強敵に対する作戦指示のようです。

普段は隊長自らというのは無いのですが、隊長の強さが規格外なので確実な方法なのです。

それをするだけの強さを隊長は感じとったのでしょう。

それにしても隊長、物凄い勢いでボコってますが出来れば生け捕りでっていう言葉を覚えていきますでしょうか。

そして奇抜な姿してるのに強いな魔物よ。

私は正直に言えば魔物の気持ち悪さと隊長の魔王の如く恐ろしい強さに近寄りたくありません。

ありませんが突撃しなくっちゃいけないんだらうなと諦めた心地で突っ込んでいく事にします。

魔物の体長は通常の二周り程でかく全身硬い鱗で覆われ大きく伸びた牙と蹄のような足で攻撃してくるのですが、

ピンクな上に凶暴な姿を無理矢理ファンシーにしようとしているものだから違和感が拭えません。

その違和感が不快感を刺激してくるのです。

絶対名前はエリザベスだ。

それ以外は認めん。

エリザベスの特性を脳内で確認しながら振り上げる足をかいくぐっ

て隊長がいつの間にか抜いた剣で腹部を斬りつけている場所とは反対のところを斬りつけていきます。

部下達も頭部へと魔法を打ち込んでサポートしていますがあまり効いていない様子です。

通常は小さく攻撃するのに向かない尻尾も実験の結果でしょうか大きくなり、まるで意思をもったもう一つの生物のように攻撃してくるのも斬りつけるのを邪魔してきます。

それを避けながら攻撃する隊長強すぎて怖いよ!!

残像で隊長が三人に見えるよ!!

暫くすると弱り始めてきたのかエリザベスの動きが鈍くなってきました。

すると隊長が指示を出したので一斉に隊長と魔物から距離をとり隊長の動向を伺いました。

隊長は回し蹴りをエリザベスに放つと魔法を発動させ巨大な剣を出現させエリザベスを串刺しにしました。

巨大なピンクの生物がびっしりとまつ毛を生やした大きな瞳から大粒の涙と言う名の粘着液を出すのはとつもないホラーでした。

金属をすり合わせたような鳴き声も相乗効果で嫌な気分させます。部下の一人がホラー物が苦手なのか涙目でした。

可哀想に。

でも、ありがとう。

周りにそういう人間が居ると冷静になるタイプなので大変助かります。

そのままの貴方でいて下さい。

捕獲可能だと判断したので無線を使いノスさん呼び出します。

ええ声してやがるのにイラアとしましたがノスさんだもの。

一時間程で着くというので更に頑丈に捕縛用の魔法でも掛けときますますかね。

本当はシフ隊がいたら楽なんですがめんどくさいのでお断りします。



## 同居六十七日目 人気メニューエリザベスのしっぱランチ

エリザベエエエエエス！！

どうして貴女はそんなに可愛らしいのおおお！！

そんな声を前方から感じつつ食事をとっています。

耳は心の耳栓をしているはずなんですけどねえ。

いやあ、褒め称える声がまるでオペラのようにええ声していらっしやいます。

本日は研究所に隊長とともに付き合わされ、会議や研究の協力が終わり少し遅めの昼食をとっているところです。

どうしてこんな状況になっっているかも会議の内容でわかると思いますが、ので回想させていただきます。

その間、巨大な肉と戦います。

でかけりゃあいいってもんじゃねえんだぞ。

エリザベス捕獲から十日過ぎた日にやっとこエリザベスに投与された薬が判明したそうです。

一種類の薬だけでなく複数の薬が投与され複雑な遺伝子配列になっており調査は難航していたようですが、ノスさんの閃きにより調査に必要な材料の入手ルートやこれから実験されるだろうとされる魔物を推測したデータが出来たらしいのです。

我々も十日間何もしていなかったわけではありませんよ。

他の薬を投与されたとされる魔物を捕獲しに行ったり怪しいとされる場所に突撃したりしてました。

捕獲しに行つた魔物は恐らくエリザベスと同様投与されているとは思つのですが最初から動きが鈍く捕獲は簡単かと思われたのですが途中で皮膚が溶け出し最後には跡形もなく気化してしまいました。

体液が染み込んだと思われる土を持ち帰り解析してみても何も判明

しなかったので開発途中の薬だったか、それとも適合するものではないものがあるのか、それによって細胞から崩壊したのではないかと推測されるそうです。

開発途中の場合エリザベスが成功したと考えると開発は最終段階にはいつているので早急に見つけ出さないといけないらしいです。

もしこれが敵国に売り出されたとしたら問題です。

エリザベス級の魔物が簡単に作り出せるようになるとしたら一気に我々の国は滅んでいくかもしれません。

現段階ではその可能性が一番高いそうで、

エリザベスが激しい戦闘を行った後だというのに元気に生きているからです。

生物としては考えられないほどの自己修復速度、欠損した部分すら細胞が分裂し新たな細胞として活動し始めるらしいです。

どうしてわかったかというところもノスさんの閃きという名のエリザベス弄りで睫毛をぶち抜きそれに絶叫しつつ涙を流したのでそれを解析してみたららしいです。

涙が他の体液よりも高濃度の成分が検出され涙腺が要となっているのではないかということですが、

どろどろとした涙は薬の成分が濃いからだそうです。

他にも電流を流してみたりえげつないこともやってみたりしてほぼ解析できたららしいです。

私怨が入りまくっていますが、それというのもノスさんが恋心を寄せている食堂の彼女がエリザベスを気に入ってしまい、

会話が出来るようになったのはいいけれどエリザベスの事ばかりなので嫉妬しているらしいです。

あのゲテモノを可愛いと言える彼女も凄いですけどそんな彼女を可愛いといい嫉妬できるノスさんも凄いです。

どうしてエリザベスを彼女が知ったのか聞いたら言葉を濁していましたが教えてくれました。

何でも入れておいた檻を破壊され脱走した場所が食堂裏の庭だった

そうです。

そこであわや食堂で働く彼女を含む職員達が殺されてしまうと思った瞬間彼女がその手に持っていたランチを大きく開いた口に投げ入れたところ大人しくなり懐いてしまったそうです。

そこから引き離そうとすると酷く暴れるし餌を与えておけば体を弄くつても暴れないので作業は格段に進んだらしいです。

あんな魔物を監視付とはいえ放し飼いにできるのには神経を疑います。

いつ何時襲い掛かってくるのかとか考えないのでしょいか。

研究者は基本螺子が数本外れていると聞きますがこの研究所に至ってはそうなのでしょいね。

わざわざファンシーな首輪を開発してつけるくらいですからね。

そしてそれを気に入るエリザベスもどうかと思います。

機能はえげつないもので一応庭のある範囲内を越えると頭がパーンツとなるらしいですが。

それもちゃんと効くのか疑わしいじゃないですか。

しかも食堂の窓から覗くのは大丈夫なのかと思ったら調理場からしか見えないので問題ないそうで、

今日も可愛いなどと窓をうっとり眺める彼女に食堂で働く皆さんは窓を見なければ叫ぶ程度だからいいかとそっとしておいてあげているらしいです。

慣れるの早いな!!

会議の三分の一は彼女の事を話していましたが今後の方針も決まり会議は滞りなく進みました。

開発協力も試着と軽い動作テストで終わりましたしね。

まだ改良していくらしいです。

そこまではいいのですが、会議の話が進むにつれて、

何故か隊長とノスさんの友情が深まり飲みに行く約束をしていたのが怖いのですが。

ノスさんが食堂の彼女を紹介してくれるというのですが副音声で仲

を取り持てよという声が聞こえます。  
隊長がやけに乗り気なのが問題です。  
私強制じゃないですが。

今回はお断りして事件が落ち着いたとらという事で先延ばしにした  
のですがこれを完全に消滅させるわけにはいかないのでしょうか。  
なんだかめんどくさい匂いしかしないです。

あつ餌の時間なのかノスさんの想い人が肉ぶん投げた。  
肉は結局食べきれずに隊長に食べてもらいました。

一緒に生活し始めてから気軽にこういふ事ができるようになりました。  
た。  
馴れって凄いですねえ。

同居六十七日目 人気メニューエリザベスのしっぽランチ（後書き）

馴らされている副隊長。

じわじわと侵略していく隊長。

そして次はあーんを目論む隊長。

それと気づかず無意識に身を委ねそうな副隊長。

## 同居六十九日目 俺達の戦いは始まったばかりだぜ！！

なあ、俺……この仕事が終わったら嫁に会いに行くんだ。

二次元の嫁になー！！

ふう……

やばいやばすぎる。

何がやばいってゲームに触らなすぎて禁断症状出てきてる。

これは由々しき事態です。

部下達に副隊長どうしたんだ。

そんなにこの任務は難航しているのかとかざわざわしてますが、今回はノスさんの協力もあって比較的早く進んでいるのでむしろ楽とも言えます。

問題はそこじゃないんです。

隊長と一緒に住んでいるしやう？

隊長の世話をしてフラウたんの世話してとかもう……ね。

最近ちょっと疲れたなあと思ってため息を吐いたのがいけなかったのか隊長がマッサージをしてくれましてね。

此処で胸キュンな展開が始まると思った貴方。

少しクールになった方がいいです。

普通です。

隊長が私の肩に手を置いた瞬間、匠の技が私に襲い掛かったのです。絶妙な力加減、ツボを的確に押してくる正確さ。

思わず涎が垂れるかと思いました。

むしろ出していいかと思いました。

眠気と涎を垂らすまいと口を引き締めては隊長の魔の手から意識を取り戻すというのを此処数日続けています。

困った事に部屋に入ったら、

へイ、カマーン、イエス、カマーンとベットが誘惑してくれちゃっているのです。

こりゃ寝ますよ。

ベット横にあるゲーム機が視界に入らない程に睡魔が襲い来るのです。

触れることすら出来ないですよ!!

本当なら睡眠時間を削ってまでやりたいのにやれないジレンマ!!  
隊長が憎い!! 隊長のあの手が憎らしい!!

……そうだ、私が隊長にマッサージをすればいいんだ。

私が隊長を負かしてらめえ状態になっている隙に自室に引っ込めばゲームが出来る。

私の閃きに驚いたわ。

決行は明日の夜ですね。

ふふ、実家の近所のおばちゃんに背中を揉ませたら右に出るものはいないと言われた私の技を見せてくれましょう。

隊長が肩なら私は背中を制覇してみせる!!

そうと決まれば今日は寝ます!!

うん、しょうがない。

明日から本気です。

本気だしてクリアする。

## 同居七十日目 一つのタワーの誕生の瞬間

待ってるやー隊長!!

きさんの背中揉み解してやらーこんちくしょうめが!!

気合を全身にみなぎらせ背中には壮大なオーラを背負いお風呂上りの隊長をリビングにて待ち構えています。

ドアを開けながらタオルで髪を拭く姿がこちらから見えます。

おっ……おおおっ!!

目があ!!目があ!!

「ミディナ?」

小首をかしげんといて!!

なんていう事でしょう。

普段から美しい顔が髪から垂れる水によって神々しいまでの美しさを放ち…

いやもう何ていうか忘れてました。

気合入れすぎて違ふところに気合を入れるのを忘れていました。

何べん煌びやかな隊長に目を粉碎されかけたことか。

やたら綺麗な顔してやがりますので私のような人間は視線だけで消毒されてしまうような気がします。

湯上りの隊長には気合をいつも入れているのですが何という失態でしょう。

「いえ、何でもありません」

確かにいきなり目をかっぴらいて見つめてきたら疑問にも思うでしょう。

そんなこたあいいのです。

とりあえずそのラグに寝そべりなよ、そののにーちゃん！！

とは言わずにいつもやっていただいでるので今日は私がやらせていただきます。

そう言うて私の考えが読めないのか疑問符が頭の中に浮かんでいるであろう隊長に寝そべっていただき失礼しますと背中に乗らせていただきます。

その瞬間魚のように跳ねて落ちるかと思いました。

乗馬の最中に速度を出すポーズが分かりますでしょうか。

そのポーズをとってしまいました。

一瞬空気が止まったのが分かりました。

先に動いたのは隊長でした。

顔の下に敷いていた腕を少し伸ばし若干逃げの体勢に入っています。

「ミディ……ナ」

何でそんなに息が切れてるんですか隊長。

無駄に悩ましいんですが。

「嫌ですか？」

少し体を乗り出して隊長の顔を覗き込むと嫌悪感はないようですが何かを耐えるような顔をしています。

そんなに苦しいんでしょうか。

「重いのでしたら止めますか？」

嫌がっている人に無理にやる趣味はありません。

いたし方ないですが今日のところは諦めようかと思ったら、

「重くない、むしろ軽い。頼む」

何故か、気迫のこもった返事が返ってきました。伸ばした腕を元に戻しやつてくれと促されます。

そついうのならばとゆつくりと背中に手を這わせこつているであろう場所を指圧していきます。

身長のせいもありますが、程よくついた筋肉のお陰か広い背中なのでやりがいがあります。

「つぐ……つ……」

隊長、もの凄くこつていたんですね。

痛気持ちいいのがいいんですよ。

徐々に体をずらしながら腰の辺りも揉んでいきます。

段々と呼吸も荒くなってきたのでここいらでやめておきますか。

本当は足の辺りまでもいきたいのですが、時間も押しているので隊長からどいて顔の横に座ります。

隊長は呆けたような顔をしていたのでなかなか気持ちよかったですしょう。

満足感とともに声をかけるとろりとした瞳が私を見つめます。

何この生き物怖い。

鼻血噴くわ。

まあ私程の人間になると口から出せませんがね。

鼻と口は繋がっていますから。

調子こいて隊長の立ち上がる姿を眺めていたらソファに座り腕を広げています。

「ミニディナ、おいで」

行くと？行くと思っっているんですか！？  
行きませんよ。行きませんとも。  
今日はいつもの私じゃないんですから。  
だから何でそんな顔して。  
なっ何だと？  
そんな顔したって私は……  
ピギヤアアアアア！！

同居七十日目 一つのタワーの誕生の瞬間（後書き）

小さい頃からの習慣か、副隊長は背中を揉むとき背中に乗らないとできないものだと思っています。

副隊長は自然に受け止めてますが肩を揉まれる時隊長の足の間に入ったりします。

色々良く耐えていると思います。

そこらへんは隊長視点で書きます。いつか。

## 同居七十二日目 寂しくないもん！！

今日は大好きなパパもママもお兄ちゃんも居ないから一人でお留守番。

本当は寂しいけどもう立派なレディになったんだもん！！

我侭なんて言えないの……

早く帰ってこないかなあ。

お兄ちゃんが今日はおいしいケーキを買ってきてくれるって約束したの！！

真っ白で甘いケーキ大好き！！

お兄ちゃんはもっと好きだけだね。

だからね良い子でお部屋の中でお人形さんのユンユンと遊んでたの。ユンユンは可愛い熊さんで緑のリボンを首に巻いてるのがチャームポイントの男の子。

いつだって一緒なんだよ！！

あれ？ユンユンの腕が動いた気がする。

気のせいかなあ。

「ユンユンお腹すいたの？蜂蜜食べる？」

ママがいつも作ってくれるホットケーキにつける蜂蜜の場所ちゃーんと知ってるんだから。

きつとお腹がすいて動き出したんだ。

ご飯をあげるとお人形さんが妖精さんになって遊んでくれるの。

この前絵本で書いてあったもん。

「いや、嬢ちゃんを食わしてくれや」

あれ？この声だれだろう？

私とユンユンしかいないのに。  
え？これはなあに……

この時から少女の運命は狂いだす。

少女が今にも蜂蜜を取りにいこうとしたときぬいぐるみから壮年の男の音がする。

するりと少女の手から風に流されるように落ちると、

ユンユンの姿がまるで岩を硬いもので叩きつける音を出しながら形が変わり少女の何倍もあるう男の姿に変わっていく。

少女の眼が大きく見開き元はぬいぐるみであったろう大男の姿がその瞳に映る。

「ユ……ン」

「残念だったな、もう逃げられねえよ」

そうして男の手が少女にのび抵抗の出来ない無垢な少女は……

ってこれのどこがハートフル少女の物語 相棒のユンユンと一緒に  
悪い敵をやっつけちゃうぞ

っだよ！！

ハートフルボッコだよちきしょう！！

途中から文章の書き方も変わってるじゃないですか！！

騙された！！絵に騙された！！

滅茶苦茶ホラーじゃないですか。

絵の中でも元ぬいぐるみのユンユンもとい妖精のおっさんが凶悪な顔過ぎて私が少女ならびびるところか漏れ出る。

何がとはいませんが。

たまには小説でもとノスさんと隊長が飲みに行った際に読んでいたというのに!!

ゲーム?ゲームですか!?

心が折れたんだよちきしょう!!

飲みに行つて来ると会議がてら行つたのはわかります。

だからつて揉みしだいてからいかんでもよろしいでしょう。

一人へブン状態!!やってみましたよ。

手足がふにゃふにゃでコントローラーが握れん。

重要な情報が入つたというので私も一緒に同行しますと言つたら揉みやがりました。

やましいことでもあるんかい、兄ちゃんよう。

……いや、いいです。

知りたくありませんから。

無知は罪とがありますけど知らなくても良い事つて世の中たくさんあるんですよ。

ほんとに。

はい、ほんとですから。

それにしてもわざわざ勤務外に呼びつけるくらいですがそれ程重要なのでしょね。

私も行つた方がいいのではないかと思うのですが。

未成年なのでお酒は飲みませんよ。

この国では十八から飲んでいいのですが私の国では二十からです。

既婚者の場合男女共に十六から飲酒が可能です。

何でかというところ婚姻時にお酒を飲む習慣があつたからなんですよね。

今では他国の婚姻式も行いますがお酒は必ず飲みます。

元からお酒が好きな人種なんですよ。

未成年の飲酒には厳しいですが成人した途端飲んだくれになります。

他国の人間よりアルコール分解が数倍も優れているらしいですよ。

進化させるほど好きなんですよかねえ。

まだ飲んだ事はありませんが検査では酒飲みの素質はありました。  
今から楽しみです。

あつ、小説読み終わってたのですが最後はユンユンが実は王子様で  
数年後少女は女性になり結ばれた二人は末永く幸せになりましたと  
いう内容でした。

それはまあいいんですが、王子とは思えない禍々しさを放っていた  
んですが。

こんなんで萌えると思ってるのか。

途中少女が不憫過ぎて読むのをやめられない罫に嵌められてみたり  
しました。

作者の精神状態を疑います。

それにしてもおっさんも敵もグロいな……

同居七十二日目 寂しくないもん!! (後書き)

隊長とノスさんの飲み会

会議一割、残り男の会話

内容は副隊長が聞いたらマツハで逃げる

そしてマツハで追いかける

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2123j/>

---

隊長と副隊長の生活

2011年12月8日01時56分発行